

平成 17 年 5 月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

特に目立った地震活動はありませんでした。なお、福岡県西方沖の地震活動は、5月2日にM5.0(最大震度4)の地震が発生しましたが、余震活動は全体として減衰してきています。

全国で震度1以上が観測された地震の回数は134回、日本及びその周辺におけるM4以上の地震の回数は76回でした。

国土地理院のGPS観測結果^(注1)では、東海地域及びその周辺においては、2001年頃からの長期的な地殻変動が継続しています。その他の地域では、特段の変化はありませんでした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また世界の主な地震は別紙2のとおりです。

なお、期間外ですが、6月3日04時16分に熊本県天草芦北地方でM4.8の地震が発生し、最大震度5弱を観測しました。

[火山活動]

噴火が観測されたのは、三宅島、桜島及び諏訪之瀬島でした。諏訪之瀬島では下旬から噴火活動が活発になりました。三宅島及び桜島の噴火はごく小規模なものです。

浅間山では、噴火は発生していませんが、活発な噴煙活動が継続し、また微弱な火映現象もほぼ連日観測されており、火山活動度レベル3(小～中噴火の可能性)が継続しています。

阿蘇山では、4月15日以降噴火がなく、5月7日頃から火山性連続微動の振幅が小さくなるなど活動にやや低下が見られたことから、5月13日に火山活動度レベルを3(小規模な噴火の可能性)から2(やや活発な火山活動)に変更しました。現在も、やや活発な火山活動が継続しています。

三宅島の多量の火山ガスの放出は依然として継続しています。

注1：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成17年4月～平成17年5月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/index.html>

注2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)5月号(6月末頃に気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注4：平成17年6月の地震活動及び火山活動については、平成17年7月11日に発表の予定です。

2005年5月の主な地震活動^{注1)}

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
1	5月2日	1時23分	福岡県西方沖	11	5.0	4	3月20日福岡県西方沖の地震(M7.0)の余震
2	5月7日	4時52分	東京都多摩東部	32	4.2	3	フィリピン海プレートの沈み込みに伴う地震
3	5月8日	15時04分	栃木県南部	10	4.5	4	内陸の浅い地震
4	5月11日	10時51分	山梨県中西部	17	4.0	3	陸のプレートとフィリピン海プレートの境界付近の地震
5	5月14日	0時14分	茨城県北部	57	4.4	3	太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
6	5月15日	15時55分	栃木県南部	9	4.8	4	内陸の浅い地震
7	5月19日	1時33分	釧路沖	58	4.8	4	太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
8	5月19日	10時14分	千葉県東方沖	33	5.4	3	太平洋プレートの沈み込みに伴う地震
9	5月21日	7時01分	宮城県沖	18	5.1	3	陸のプレート内で発生した地震
10	5月25日	20時31分	豊後水道	54	4.6	3	フィリピン海プレート内部の地震
11	5月27日	3時17分	徳島県北部	42	4.7	3	フィリピン海プレート内部の地震
12	5月27日	17時07分	宮城県北部	109	4.9	3	太平洋プレート内部の地震
13	5月30日	7時34分	千葉県北東部	51	4.7	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震
14	5月31日	11時04分	日向灘	29	5.8	4	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震

注1)「主な地震活動」とは 陸域でM4.0以上かつ震度3以上地震、 海域でM5.0以上かつ震度3の地震、
M6.0以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

注2)「その他の活動」とは 主な地震活動の基準に該当する地震で2005年6月中に発生したものを。

その他の活動^{注2)}

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考 / コメント
6月1日	20時44分	東京湾	28	4.3	3	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震
6月2日	6時56分	秋田県内陸南部	10	4.0	3	内陸の浅い地震
6月3日	4時16分	熊本県天草芦北地方	11	4.8	5弱	陸のプレート内で発生した地震

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2005年5月30日に気象庁において第230回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

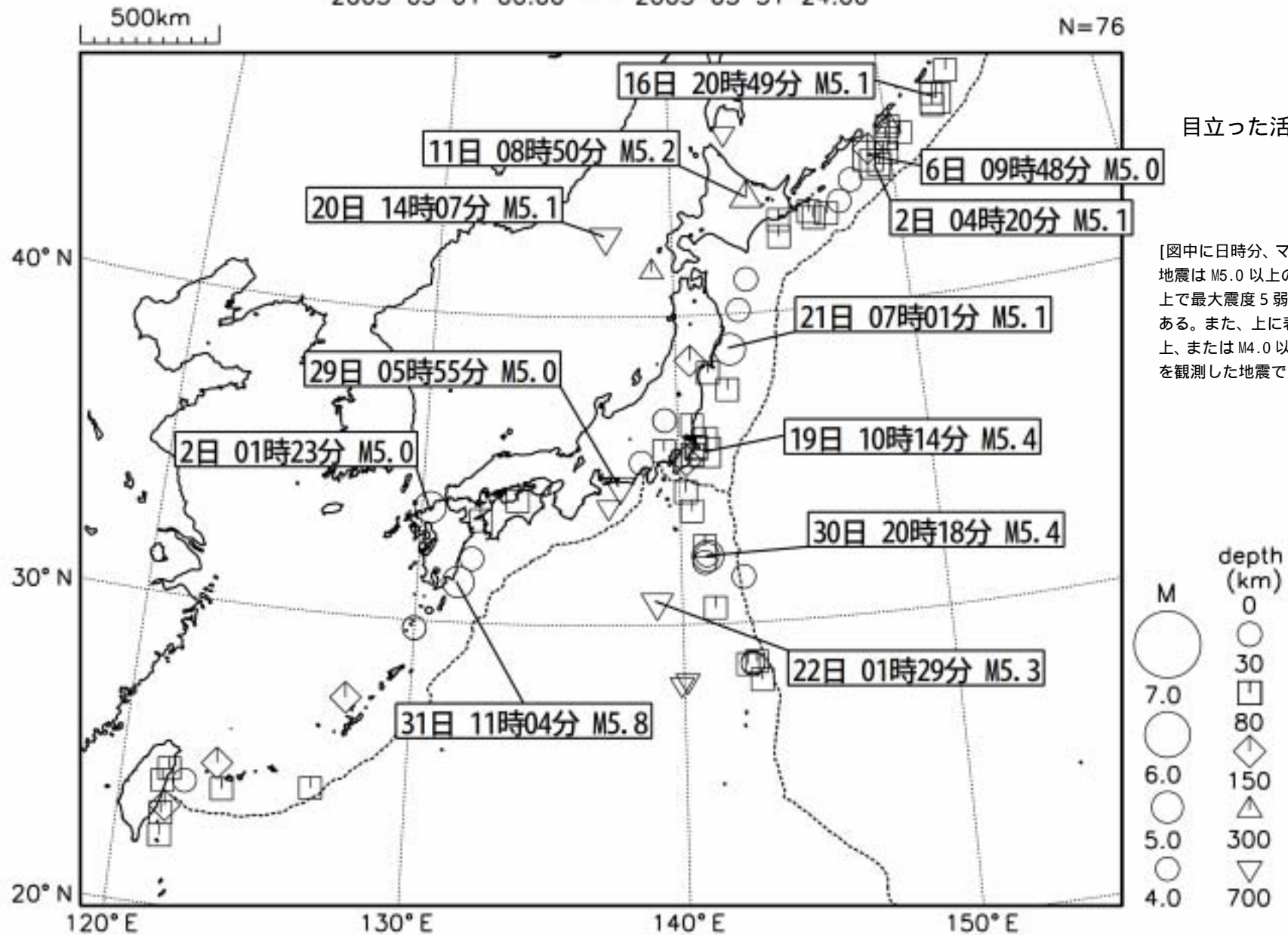
全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

地殻変動については、昨年9月5日の東海道沖(紀伊半島南東沖)のM7.4の地震以降、この地震による余効変動と見られる動きが観測されていました。最近ではこの地震以前の状態に戻りつつあり、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動が継続していると考えられます。

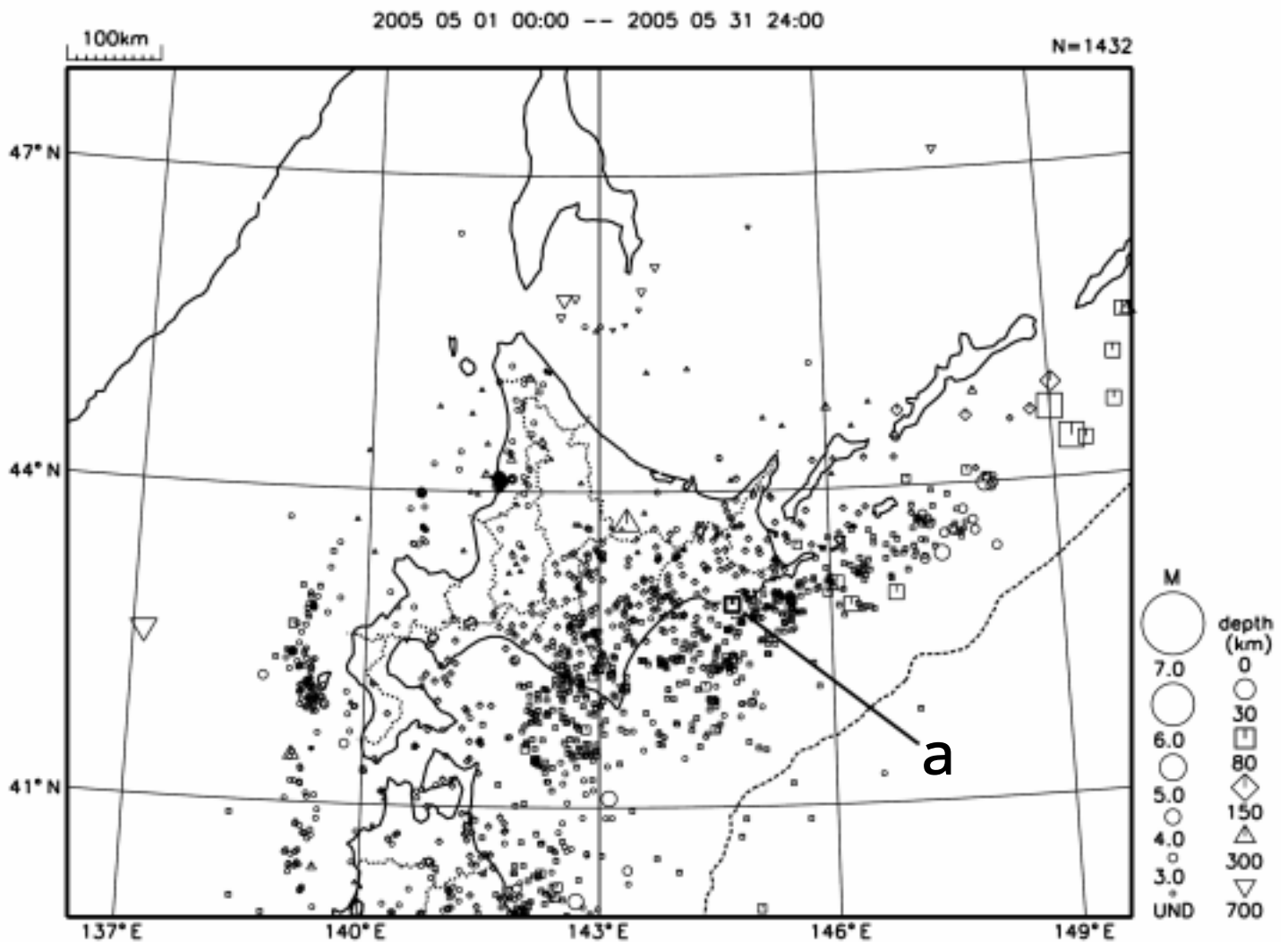
2005年5月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）

2005 05 01 00:00 -- 2005 05 31 24:00

N=76



北海道地方



a) 5月19日に釧路沖でM4.8(最大震度4)の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

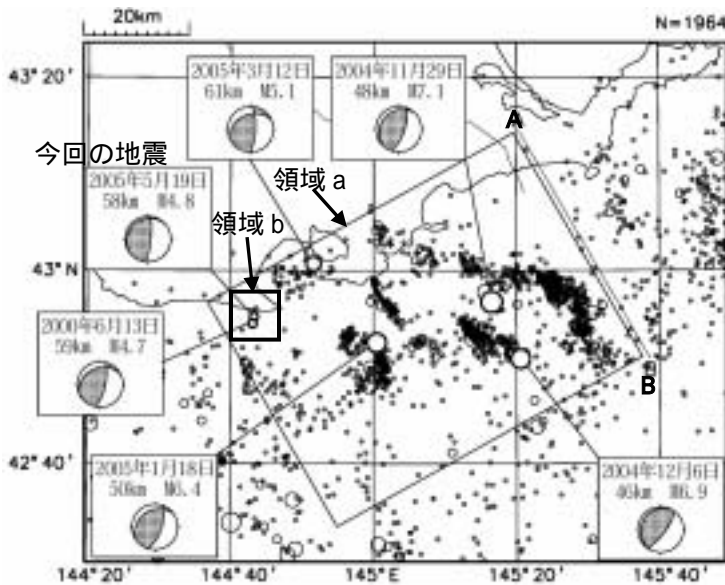
ただし、上記釧路沖の地震は、沿岸付近で発生したため陸域相当とした。

5月19日 釧路沖の地震

A

震央分布図

(1997年10月1日～2005年6月5日、M 2.0)



2005年5月19日01時33分に釧路沖の深さ58kmでM4.8(最大震度4)の地震が発生した(A)。余震は観測されていない。

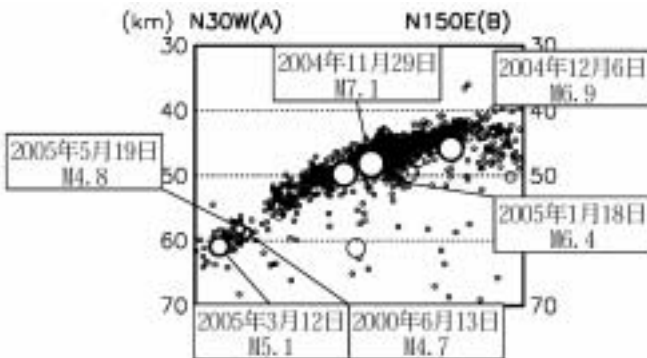
この地震は、2004年11月29日03時32分に発生した釧路沖の地震(M7.1、最大震度5強)の余震域の西方で発生した。発震機構は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

この地震とほぼ同じ場所では、2000年6月13日にM4.7(最大震度4)の地震が発生している。

なお、釧路沖の地震の余震活動は減衰してきている(B)。

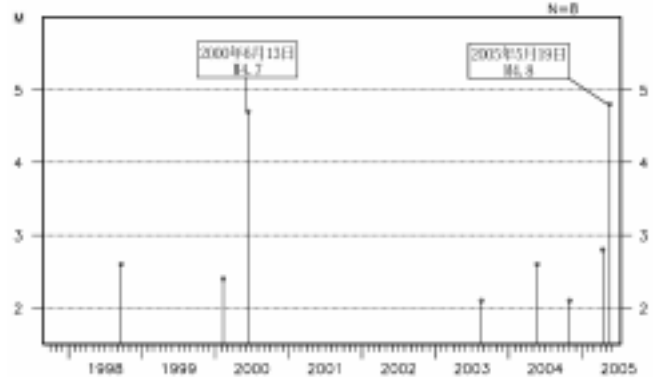
領域 a の断面図 (A - B 投影)

1997年10月1日～2005年6月5日



領域 b 内の M - T 図及び回数積算図

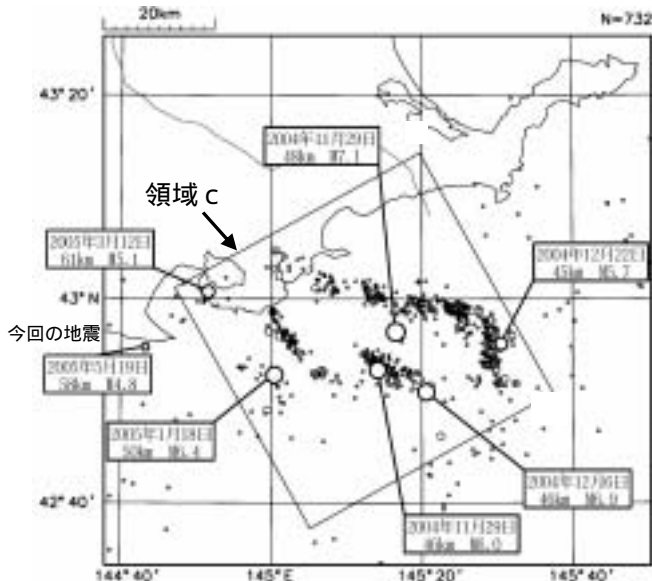
(1997年10月1日～2005年6月5日、M 2.0)



B

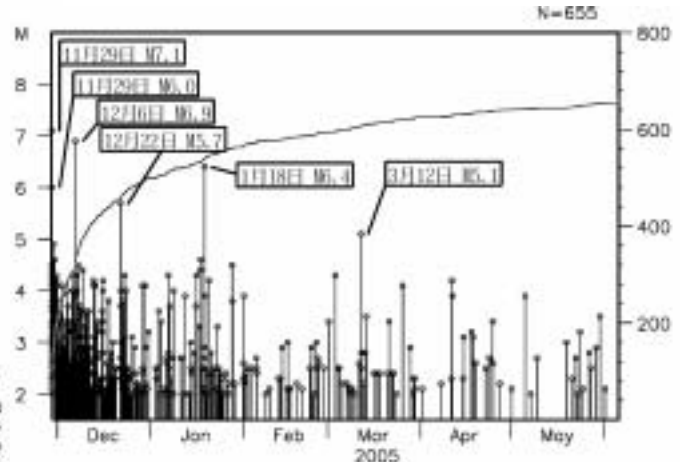
震央分布図

(2004年11月29日～2005年6月5日、M 2.0)

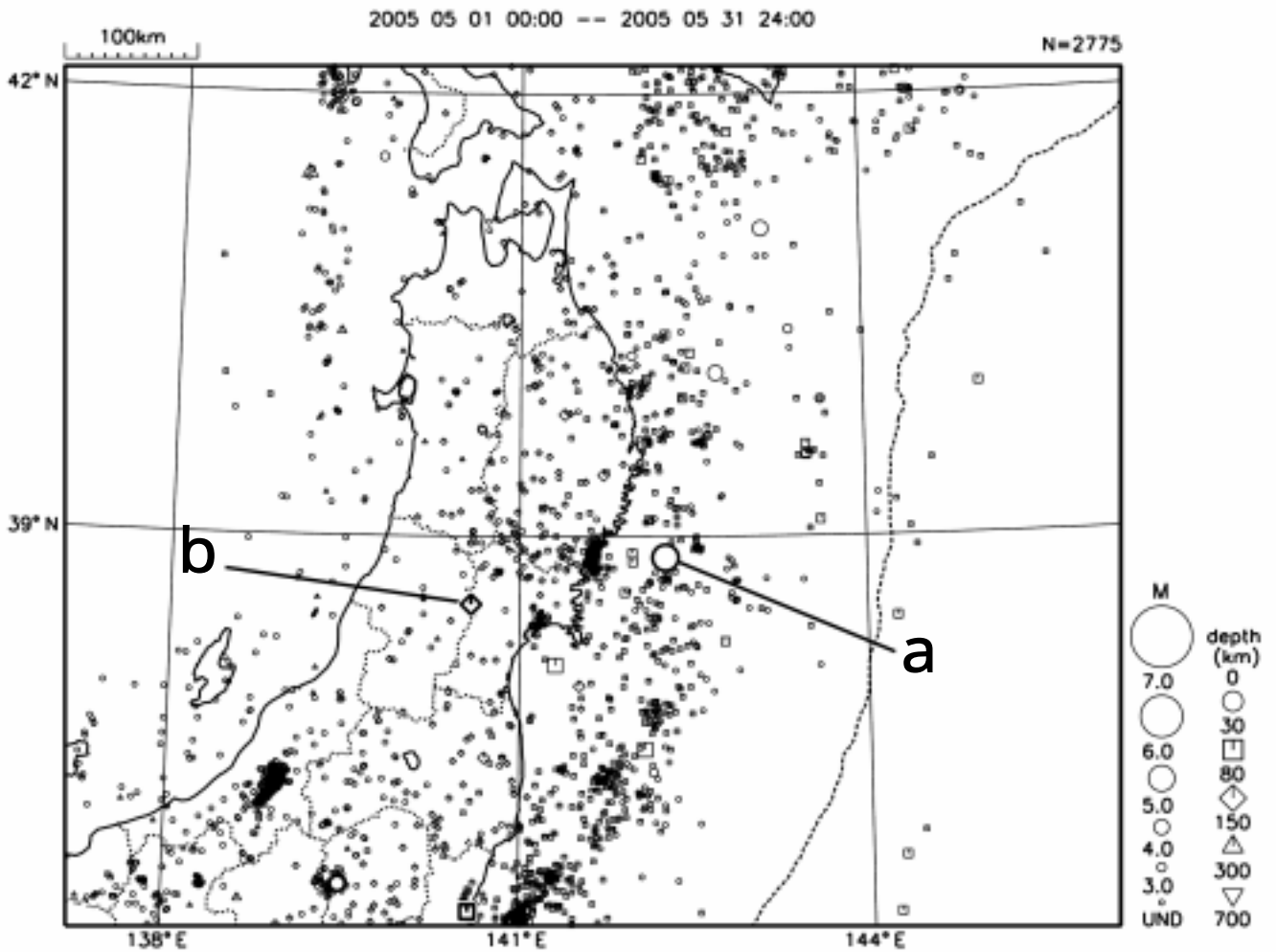


領域 c 内の M - T 図及び回数積算図

(2004年11月29日～2005年6月5日、M 2.0)



東北地方



a) 5月21日に宮城県沖でM5.1(最大震度3)の地震があった。

b) 5月27日に宮城県北部でM4.9(最大震度3)の地震があった。

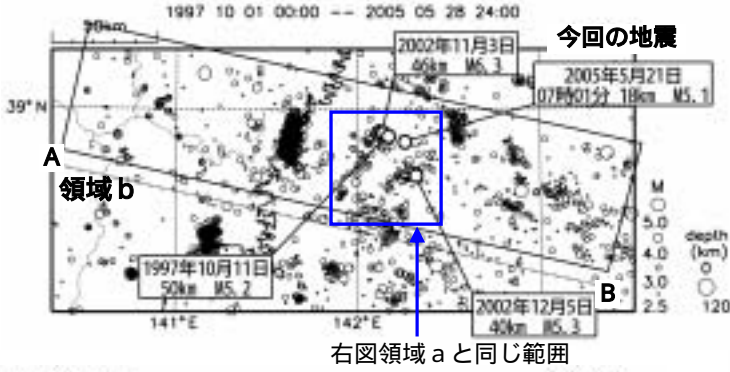
(上記期間外) 6月2日に秋田県内陸南部でM4.0(最大震度3)の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

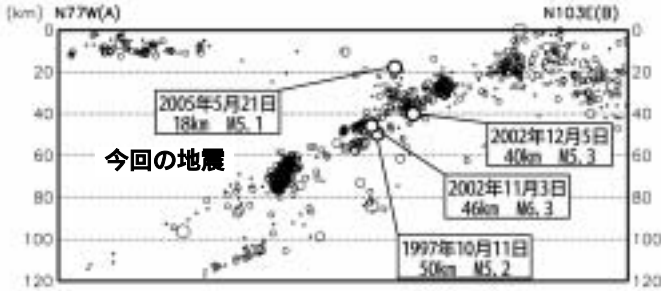
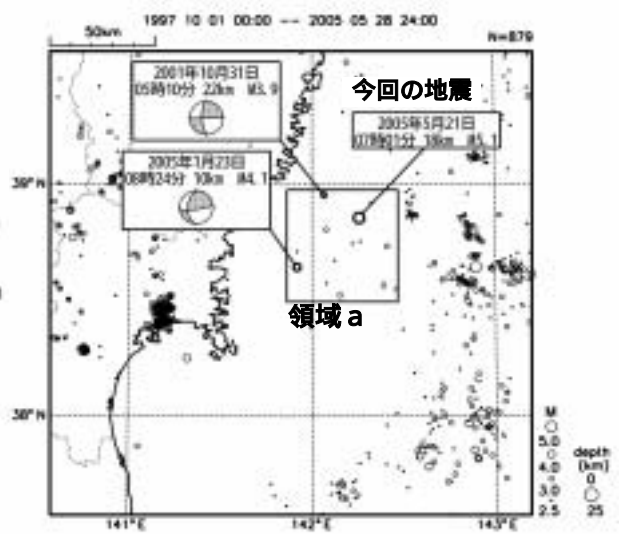
5月21日 宮城県沖の地震

A

震央分布図 (1997年10月以降、M 2.5)



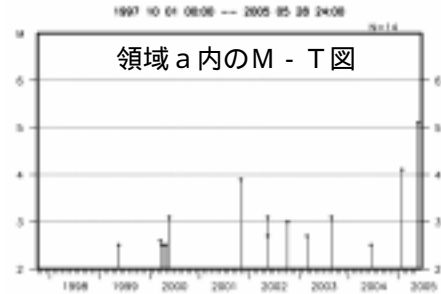
震央分布図 (同左、ただし、深さ25km以浅)



領域b内の断面図 (A - B投影)

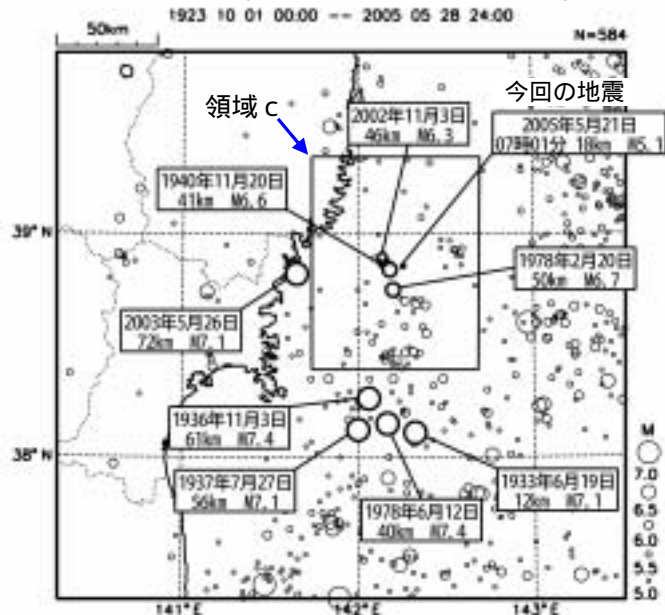
2005年5月21日07時01分に宮城県沖の深さ18kmでM5.1 (最大震度3) の地震が発生した。この地震は陸のプレート内で発生した地震と考えられる。余震活動はM2.0未満が10個程度観測されただけで低調だった。

今回の地震の震央付近では、断面図に見られるように、プレートの沈みこむ境界付近から盛り上がるような形で、少数ではあるが浅い活動が認められる。(A)

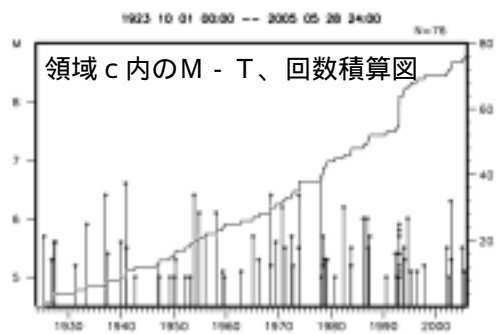


B

震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



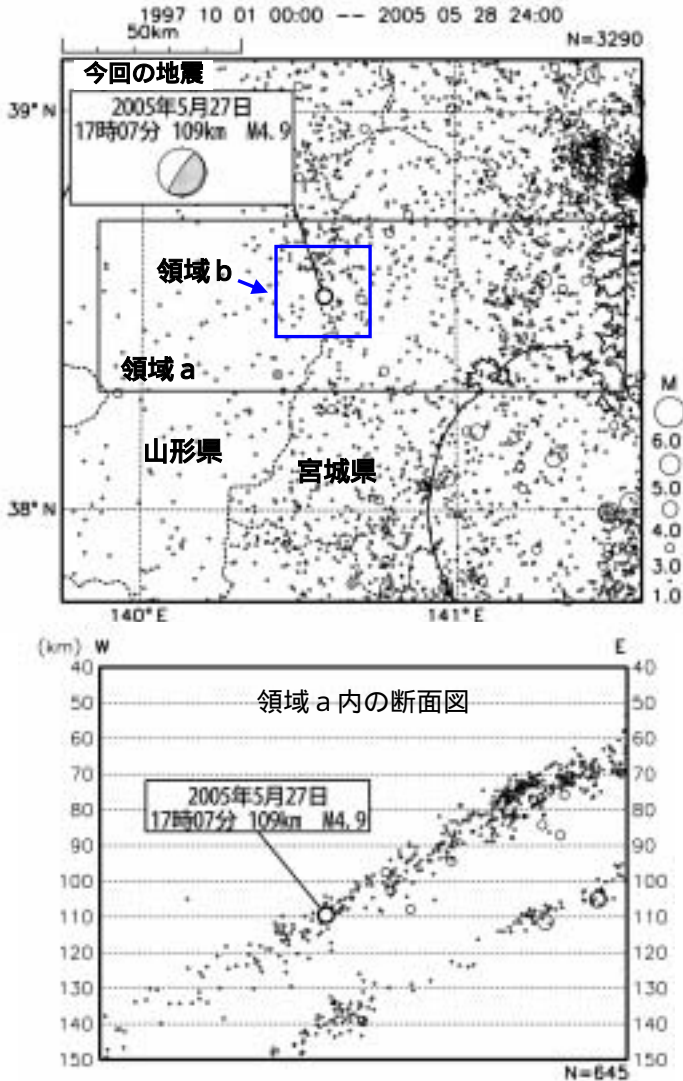
1923年8月以降について、今回の地震の震央付近をやや広めにみると、M6クラスの地震が数多く発生しているが、いずれも太平洋プレートの境界や内部で発生したものである。(B)



5月27日 宮城県北部の地震

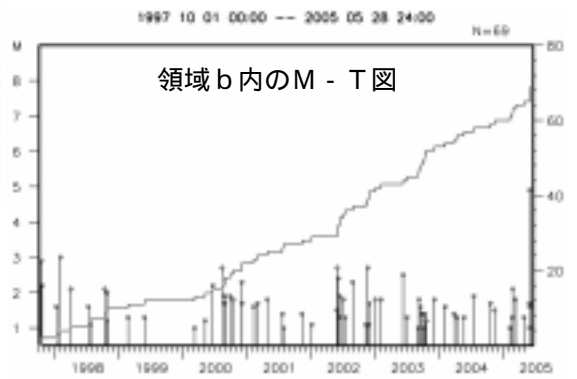
A

震央分布図 (1997年10月以降、M 1.0、深さ40km以深)



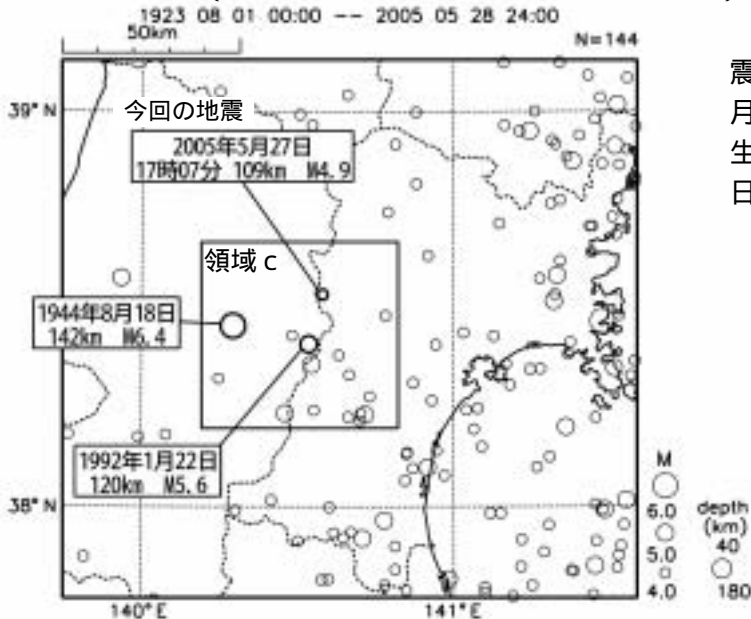
2005年5月27日17時07分に宮城県北部の深さ109kmでM4.9(最大震度3)の地震が発生した。発震機構はプレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部の地震である。余震活動は28日までにM2.0未満が4回観測された。

今回の地震の震源付近でM4.0を超えた地震は、1997年10月以降では今回の地震のみである。(**A**)

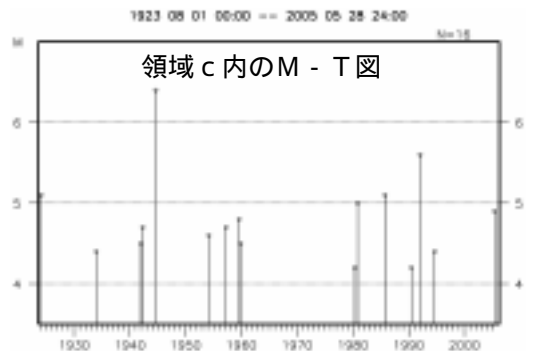


B

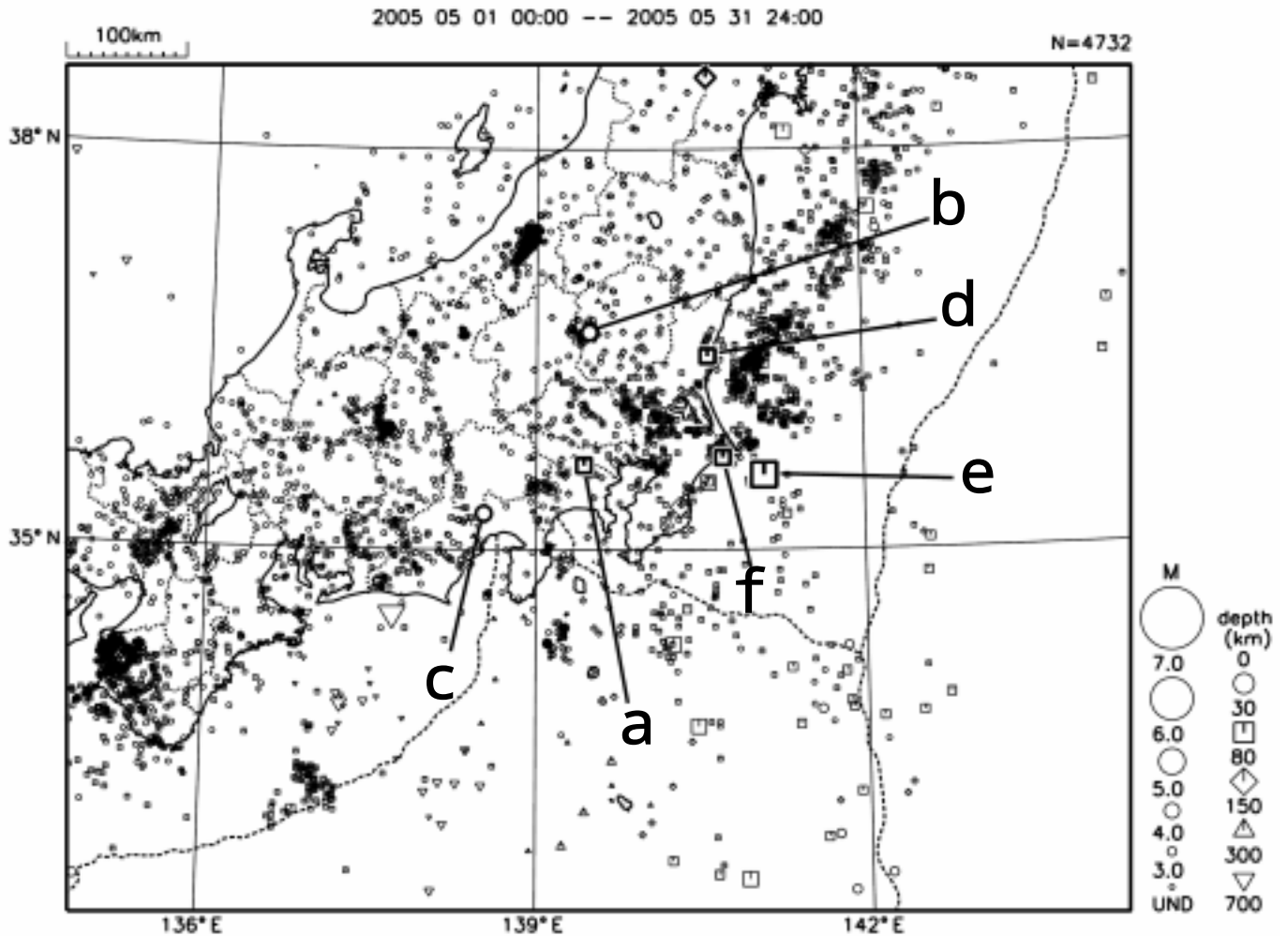
震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0、深さ40km以深)



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近の太平洋プレート内では、1944年8月18日にM6.4の地震が発生している。最近発生したM5クラスの地震には、1992年1月22日のM5.6がある。(**B**)



関東・中部地方



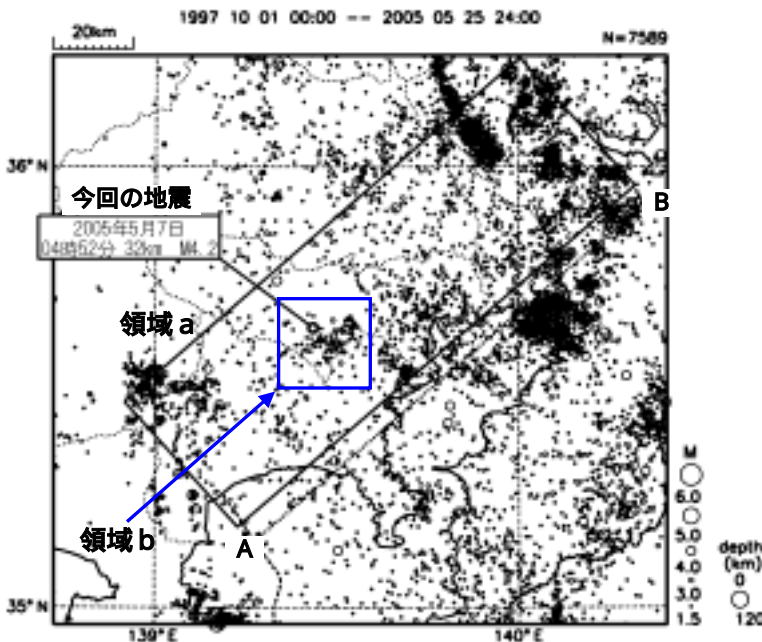
- a) 5月7日に東京都多摩東部で M4.2 (最大震度3) の地震があった。
- b) 栃木・群馬県境付近 [栃木県南部] で 5月8日に M4.5 (最大震度4) 、 5月15日に M4.8 (最大震度4) の地震があった。
- c) 5月11日に山梨県中西部で M4.0 (最大震度3) の地震があった。
- d) 5月14日に茨城県北部で M4.4 (最大震度3) の地震があった。
- e) 5月19日に千葉県東方沖で M5.4 (最大震度3) の地震があった。
- f) 5月30日に千葉県北東部で M4.7 (最大震度3) の地震があった。

(上記期間外) 6月1日に東京湾で M4.3 (最大震度3) の地震があった。

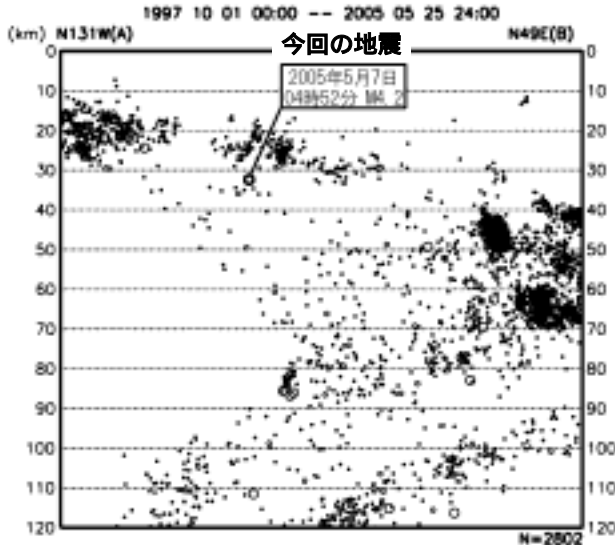
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

5月7日 東京都多摩東部の地震

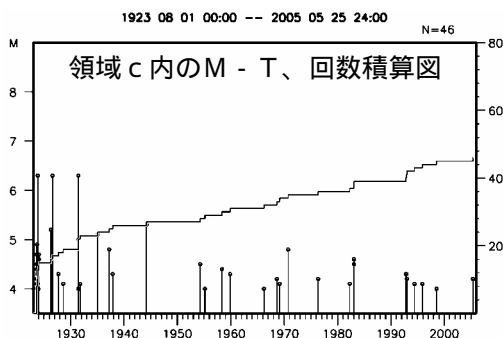
A 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.5)



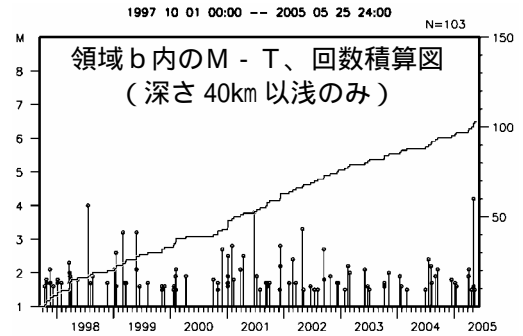
領域a内の断面図 (A - B 投影)



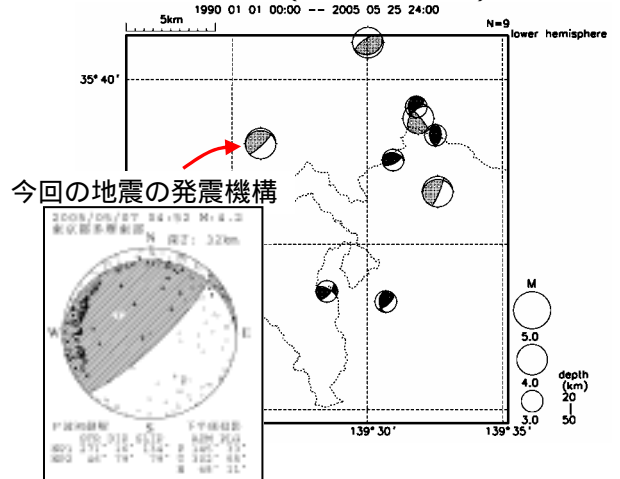
1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M4.0以上の地震は1998年7月20日 (M4.0) 以来である。また、M5.0以上の地震は1944年3月19日 (M5.3) 以降発生していない。(**B**)



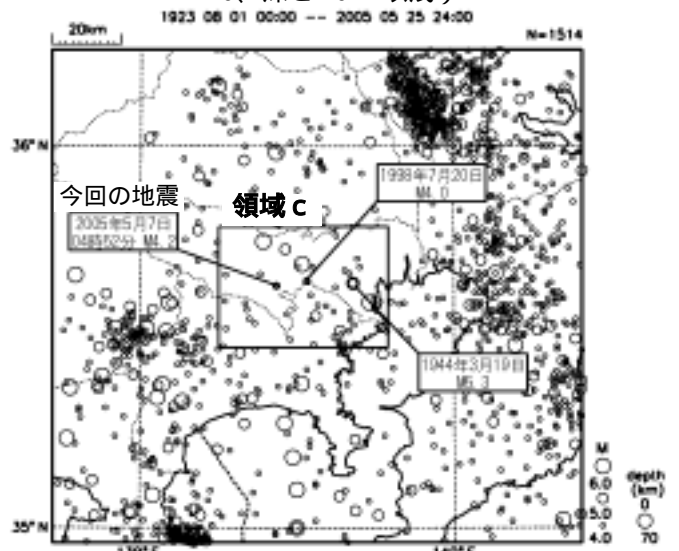
2005年5月7日04時52分に東京都多摩東部の深さ32kmでM4.2 (最大震度3) の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートの沈み込みに伴う地震である。余震は観測されていない。今回の地震の震源の上にはクラスタがあり、最近ではM4前後の地震が3, 4年に1回程度発生している。(**A**)



発震機構分布 (深さ20~50km)

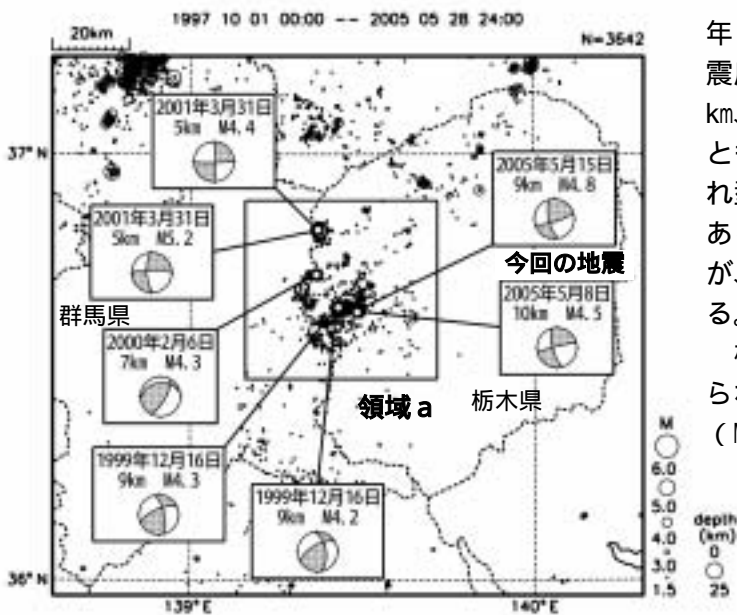


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0、深さ70km以浅)



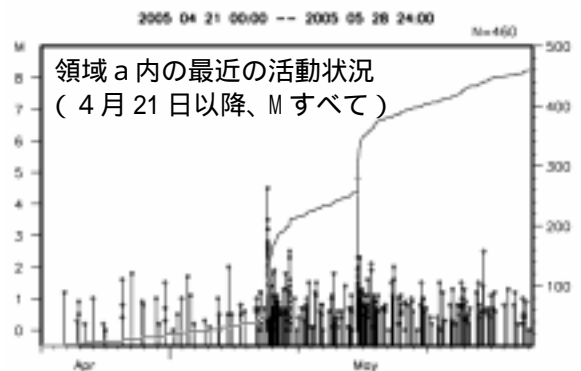
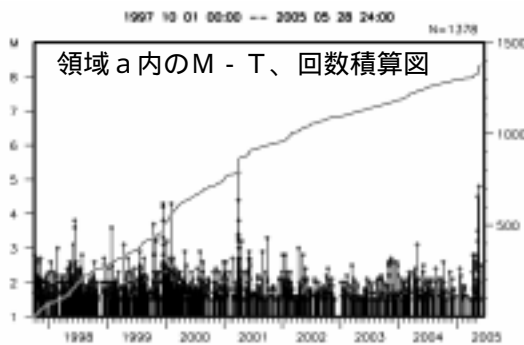
5月8日、15日 栃木・群馬県境付近 [栃木県南部] の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.5)



栃木・群馬県境付近 [栃木県南部] で、2005年5月8日15時04分にM4.5 (深さ10km、最大震度4) と5月15日15時55分にM4.8 (深さ9km、最大震度4) の地震が発生した。発震機構はともに西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ型で、この付近の地震によく見られるタイプである。両地震とも、やや活発な余震活動を伴ったが、徐々に地震発生前の活動レベルに戻りつつある。

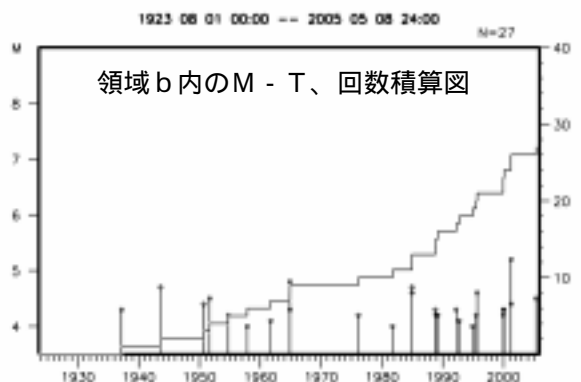
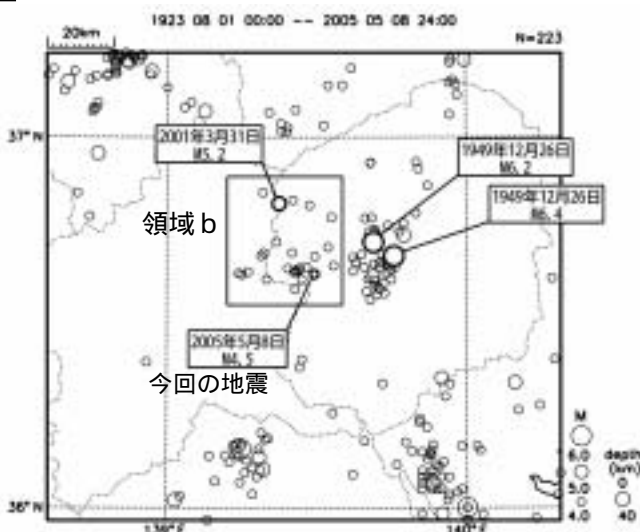
栃木・群馬県境付近では定常的な地震活動がみられるが、M4.0以上の地震は2001年3月31日 (M5.2) 以来である。 (**A**)



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M4.0以上の地震が比較的数量多く発生しているが、最大は2001年3月31日のM5.2の地震である。

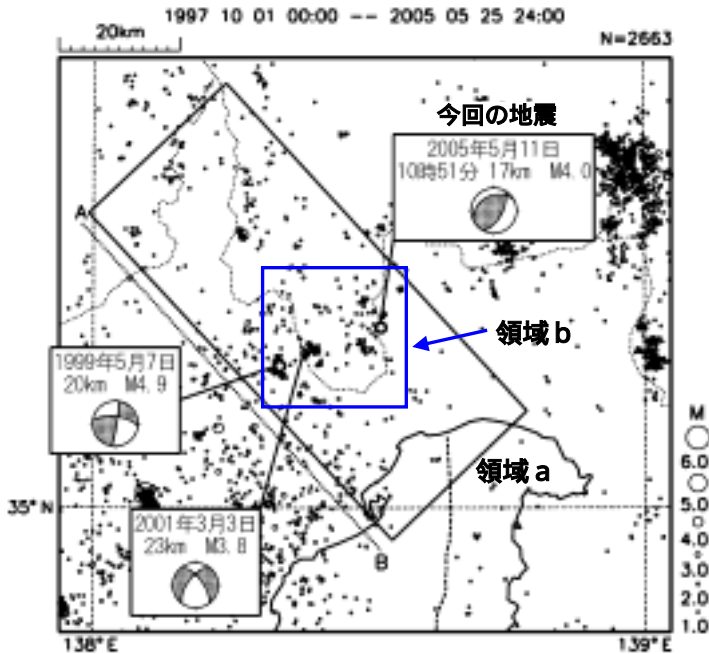
なお、領域bの東側の活動は1949年の今市地震とその余震活動である。 (**B**)

B 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)

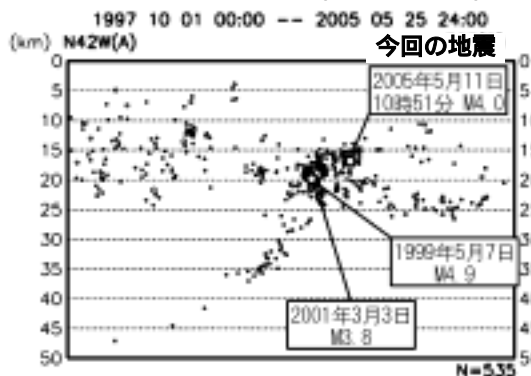


5月11日 山梨県中西部の地震

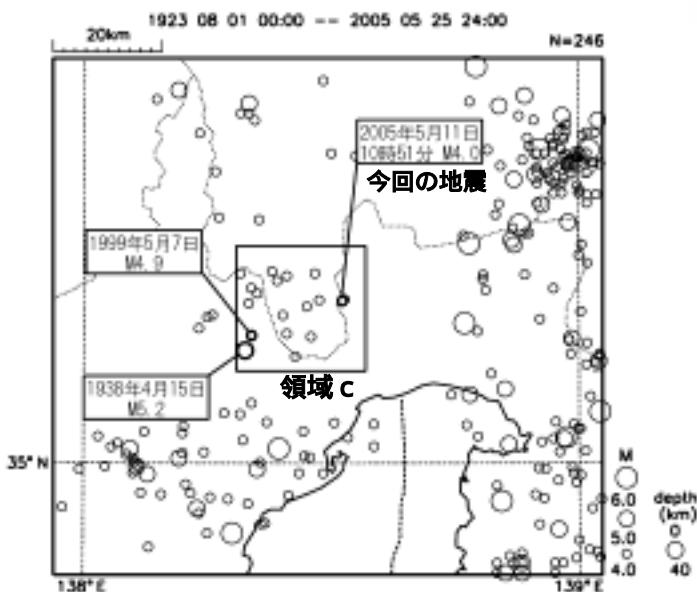
A 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.0)



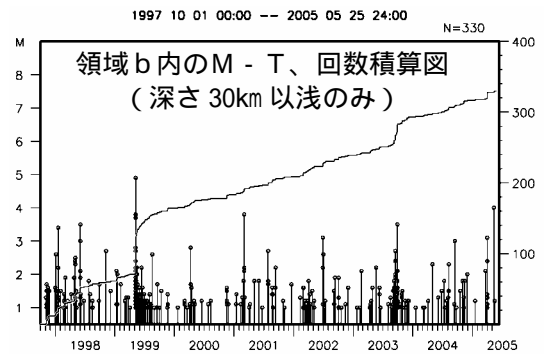
領域a内の断面図 (A - B 投影)



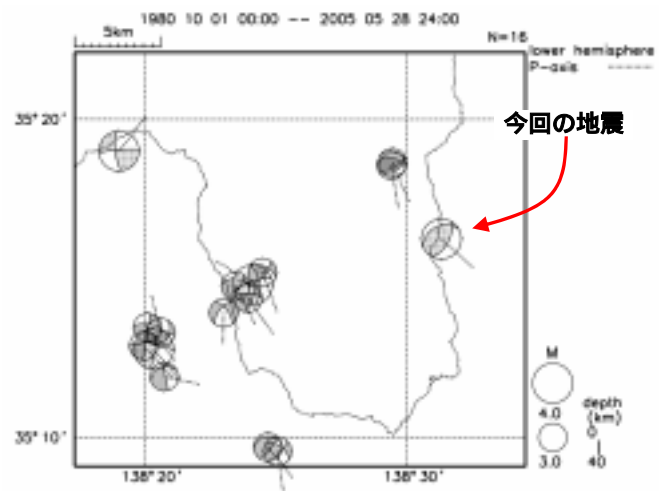
B 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)



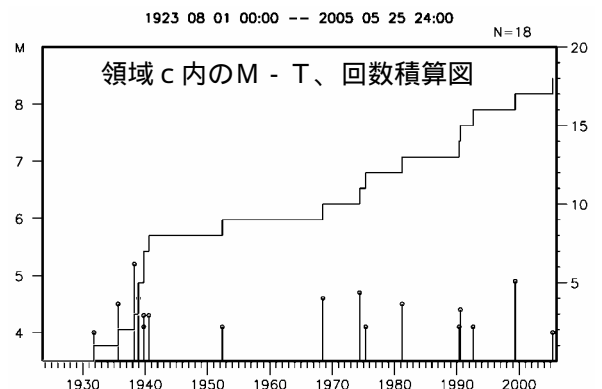
2005年5月11日10時51分に山梨県中西部の深さ17kmでM4.0(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界付近の地震と考えられる。今回の地震の震源付近でのM4.0以上の地震は、1999年5月7日の地震(M4.9)以来である。(A)



領域b内の発震機構 (深さ40km以浅のみ)

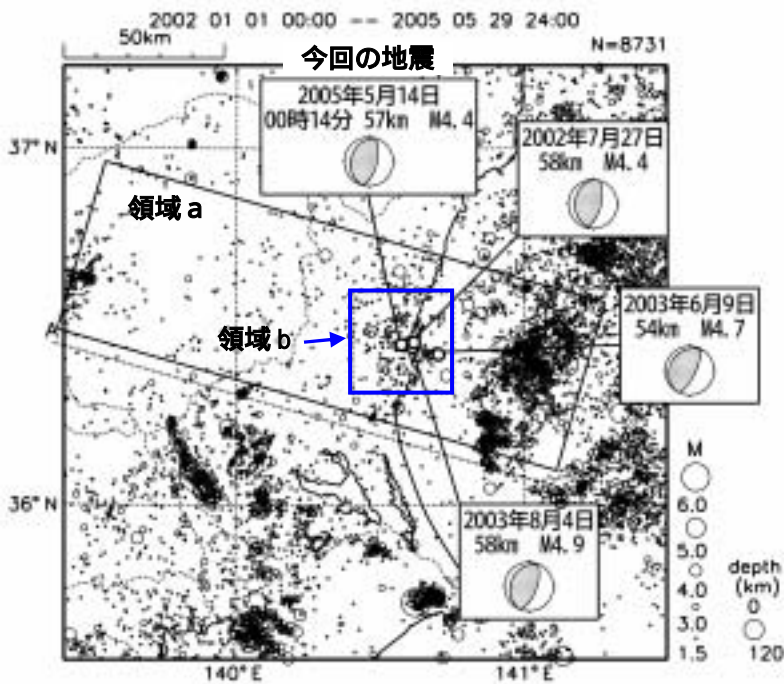


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M4.0以上の地震は時々発生しているが、最大は1938年4月15日のM5.2の地震である。(B)



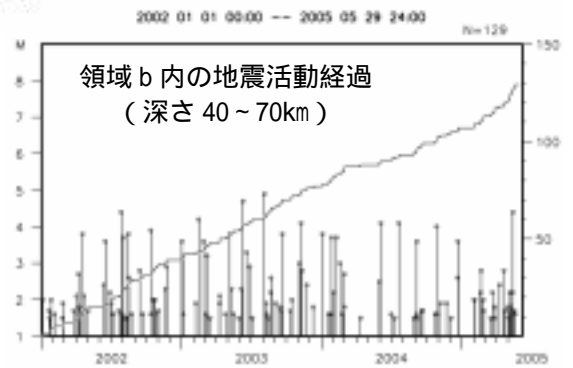
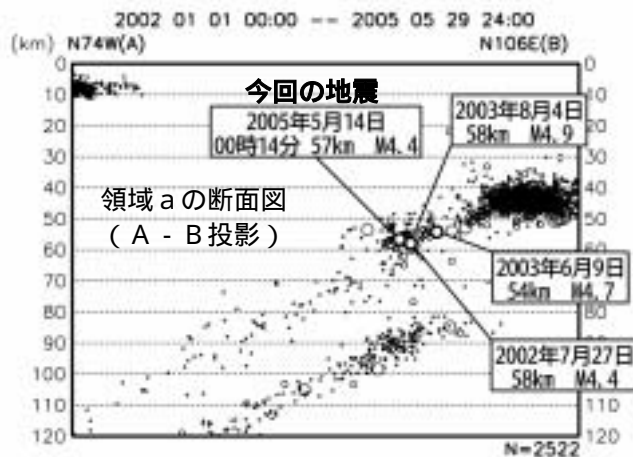
5月14日 茨城県北部の地震

A 震央分布図 (2002年以降、M 1.5)



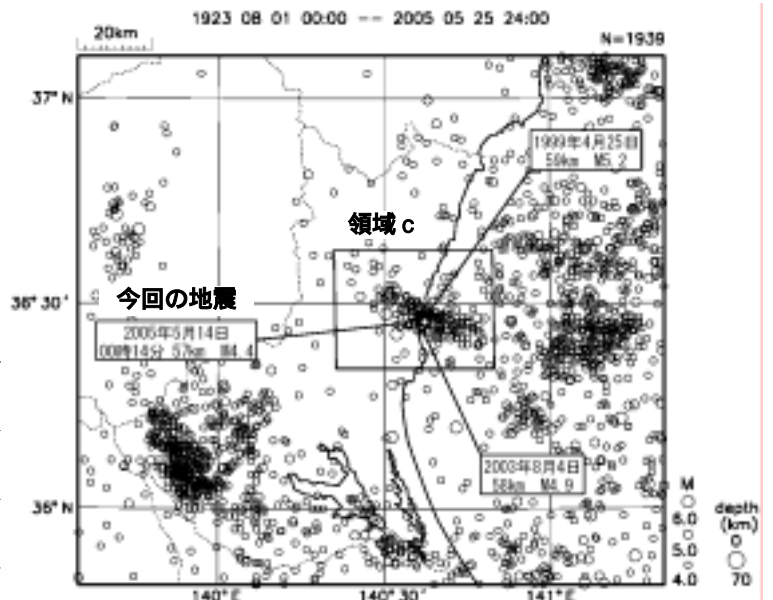
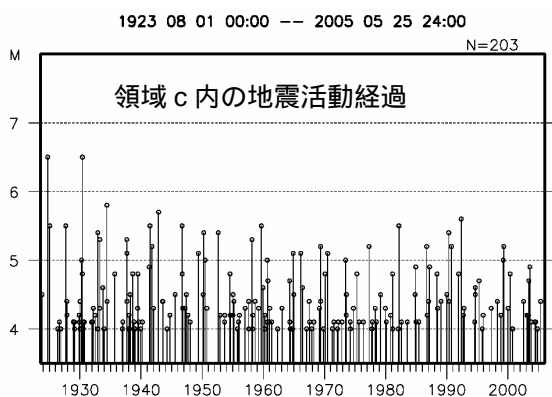
2005年5月14日00時14分に茨城県北部の深さ57kmでM4.4(最大震度3)の地震が発生した。余震は発生していない。発震機構は、東南東-西北西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

今回の地震の震源付近には、太平洋プレート上面付近で発生する地震の活動域があり、今回の地震はその活動域内で発生した。この活動域ではM4クラスの地震はたびたび発生している。(A)



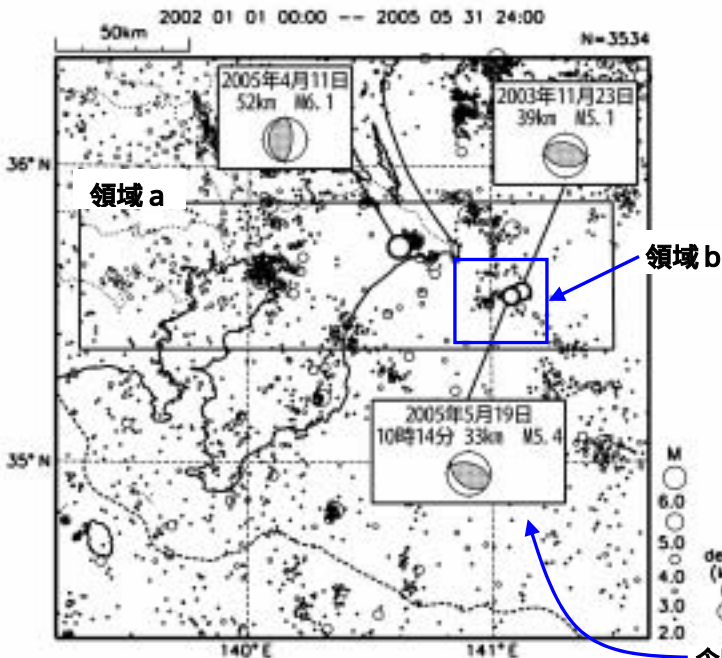
1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近ではM6.5が最大で、M5.0以上の地震が数年に1回程度の割合で発生している。近傍では、2003年8月4日にM4.9、1999年4月25日にM5.2の地震が発生している。(B)

B 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0、深さ0~70km)

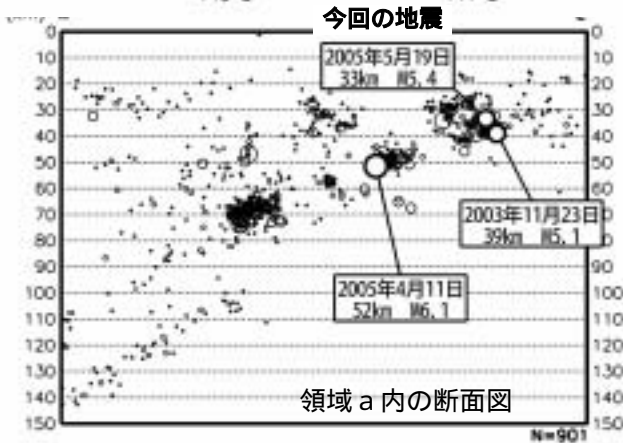
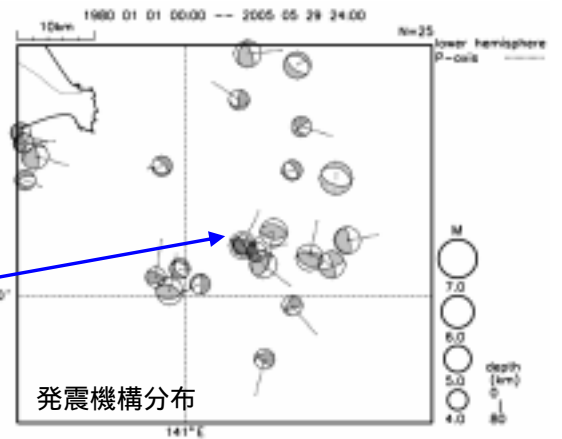


5月19日 千葉県東方沖の地震

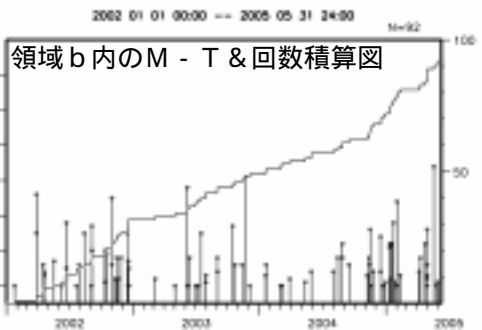
A 震央分布図 (2002年以降、M 2.0)



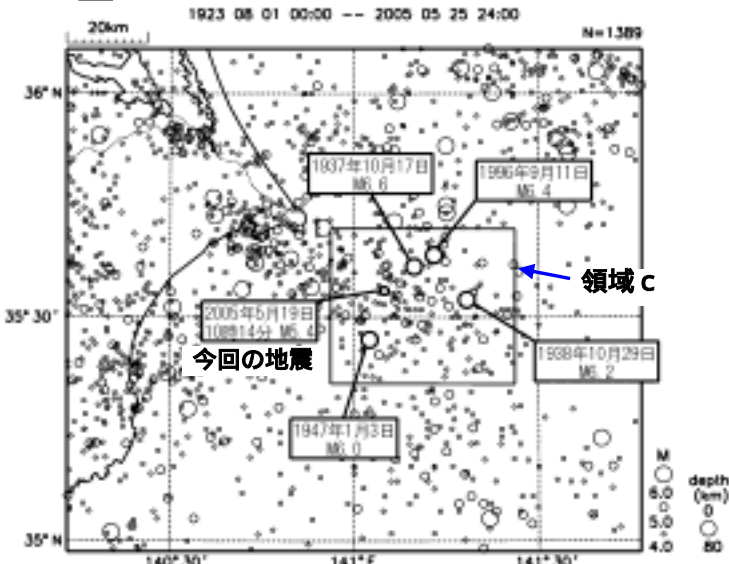
2005年5月19日10時14分に千葉県東方沖の深さ33kmでM5.4(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、圧力軸の方向は典型的な太平洋プレート沈み込みに伴う地震とは異なるが、この付近ではよく見られる型である。今回の地震の震源付近では、2003年11月23日にM5.1(最大震度4)の地震が発生している。(A)



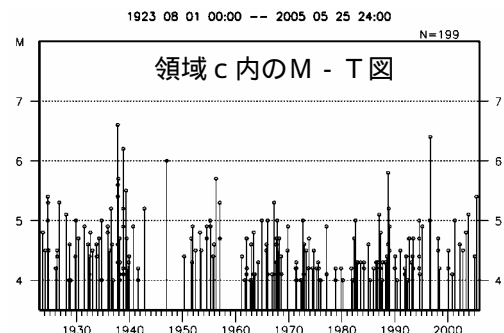
今回の地震



B 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)

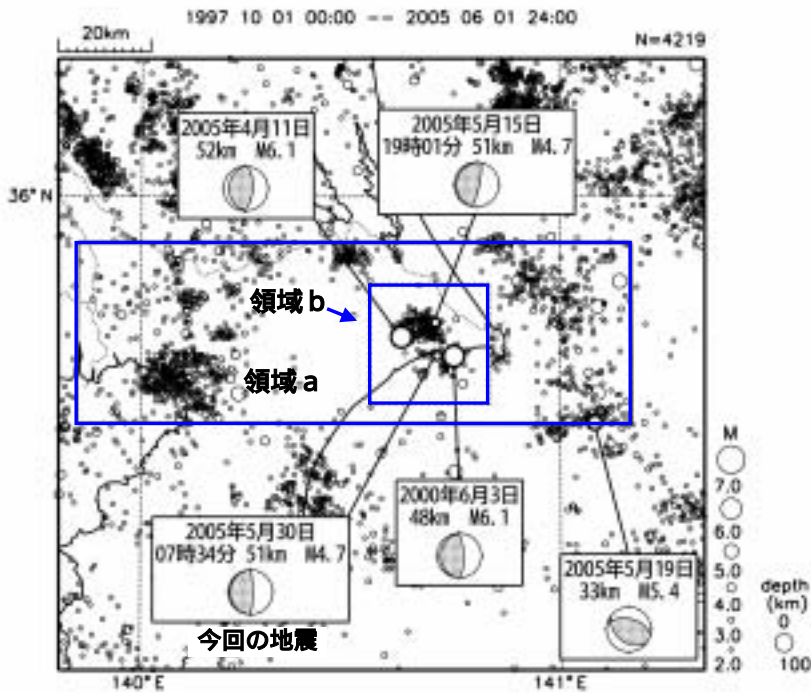


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M6.0以上の地震が4回観測されており、最大は1937年10月17日のM6.6の地震である。(B)



5月30日 千葉県北東部の地震

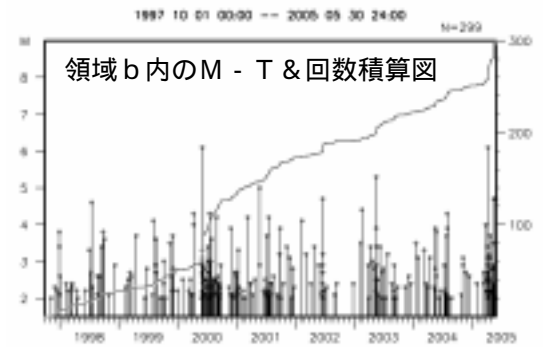
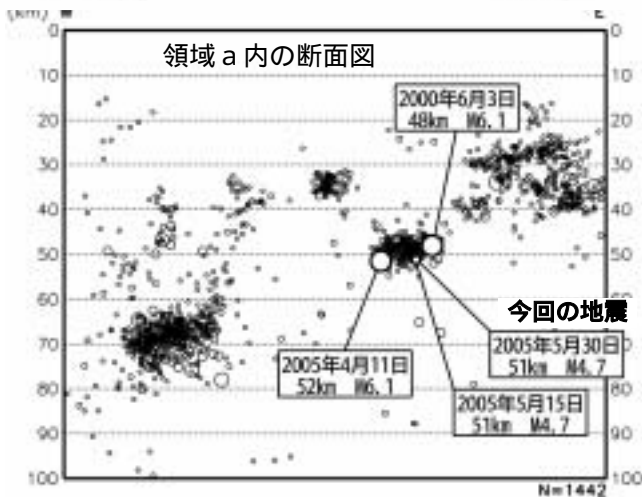
震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)



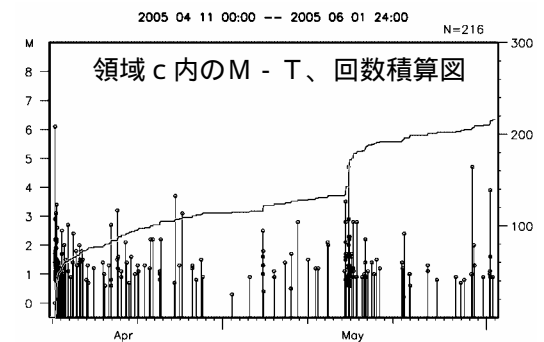
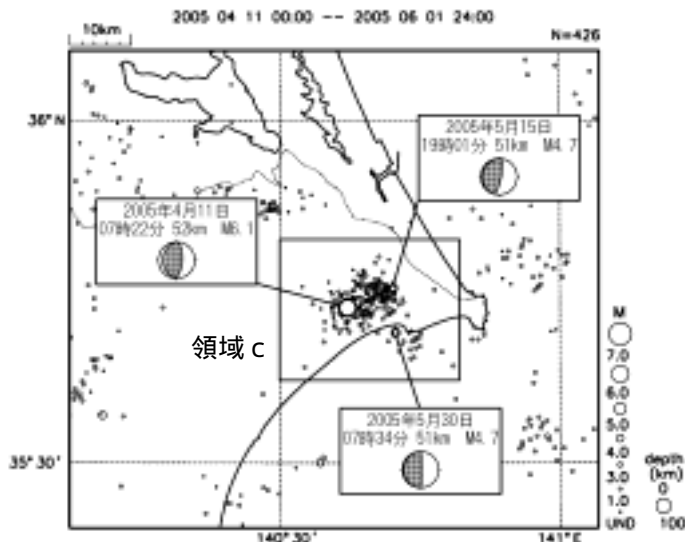
2005年5月30日07時34分に千葉県北東部の深さ51kmでM4.7 (最大震度3) の地震が発生した。今回の地震の震源付近では、2005年4月11日にM6.1 (最大震度5強) の地震が発生している。

なお、付近では5月15日19時01分にもM4.7 (深さ51km、最大震度2) の地震が発生している。

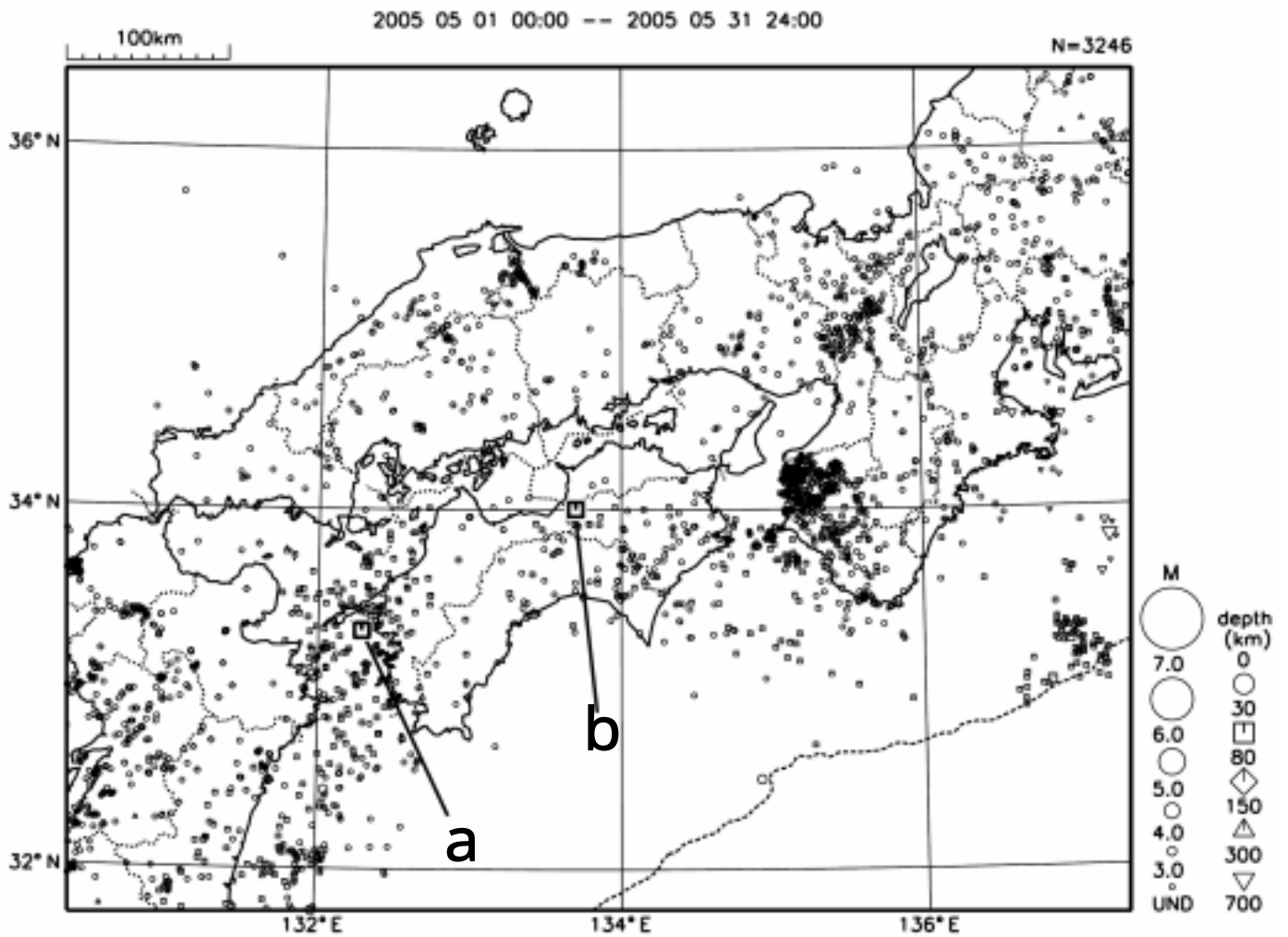
発震機構は、15日の地震、30日の地震ともにほぼ東西に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。



2005年4月11日の地震 (M6.1) 以降の活動 (Mすべて)



近畿・中国・四国地方



- a) 5月25日に豊後水道で M4.6 (最大震度3) の地震があった。
b) 5月27日に香川・徳島・愛媛県境付近 [徳島県北部] で M4.7 (最大震度3) の地震があった。

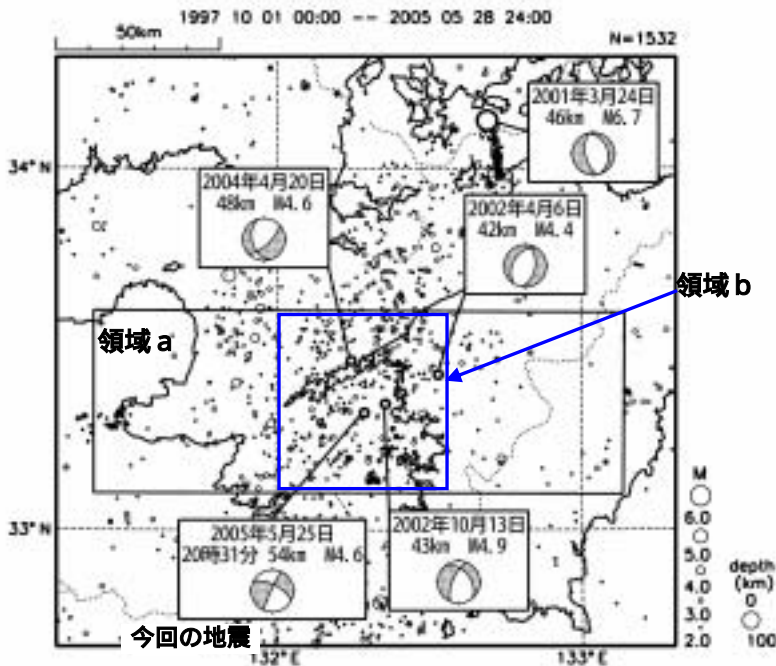
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

ただし、上記豊後水道の地震は、内海で発生したため陸域相当とした。

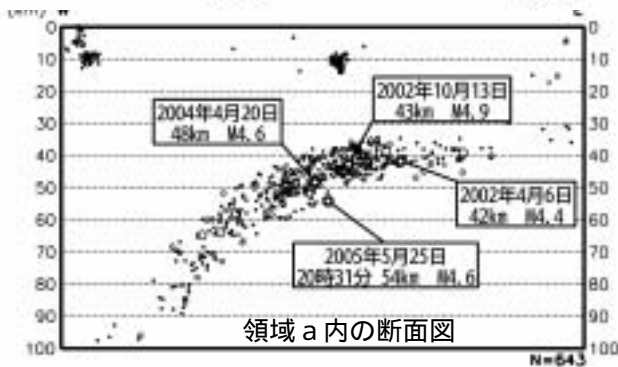
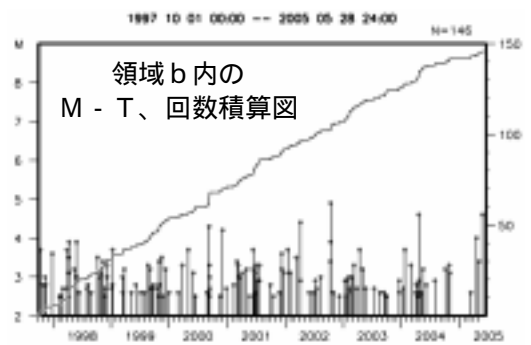
5月25日 豊後水道の地震

A

震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)

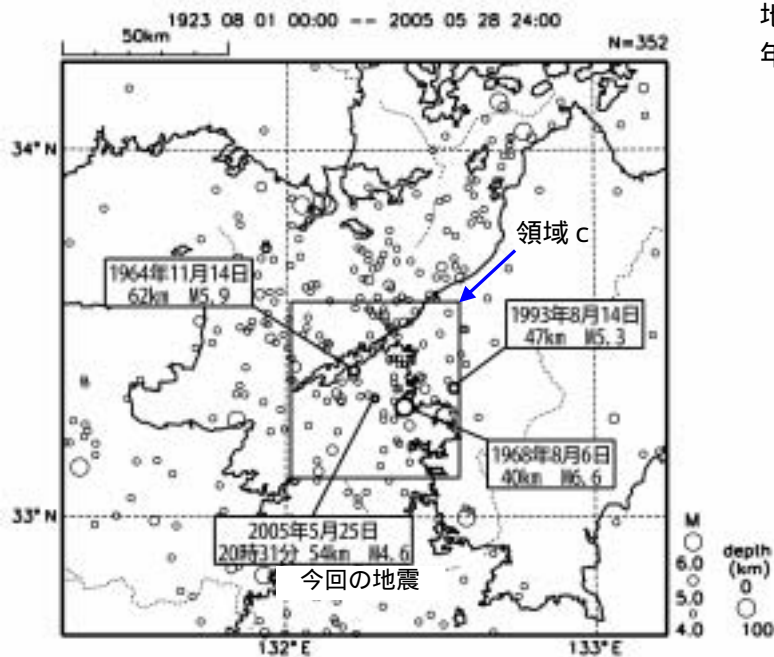


2005年5月25日20時31分に豊後水道の深さ54kmでM4.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は西南西-東北東に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部の地震である。張力軸の方向はこの付近のプレート内部の地震によく見られる。余震は観測されていない。今回の地震の震源付近では、M4~M5程度の地震が時々発生している。(**A**)

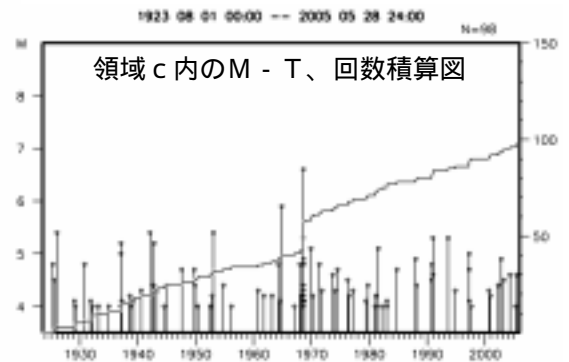


B

震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)



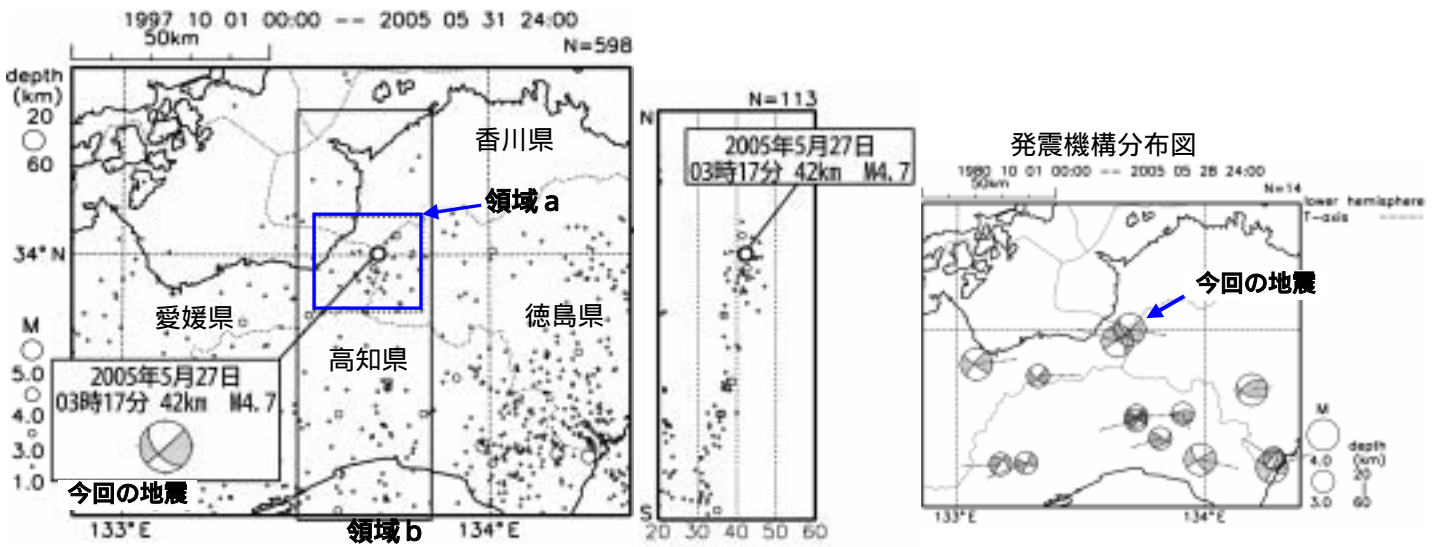
1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、1968年8月6日のM6.6の地震が最大である。最近のM5.0以上は、1993年8月14日のM5.3の地震である。(**B**)



5月27日 香川・徳島・愛媛県境付近 [徳島県北部] の地震

A

震央分布図 (1997 年 10 月以降、M 1.0、深さ 20km ~ 60km)



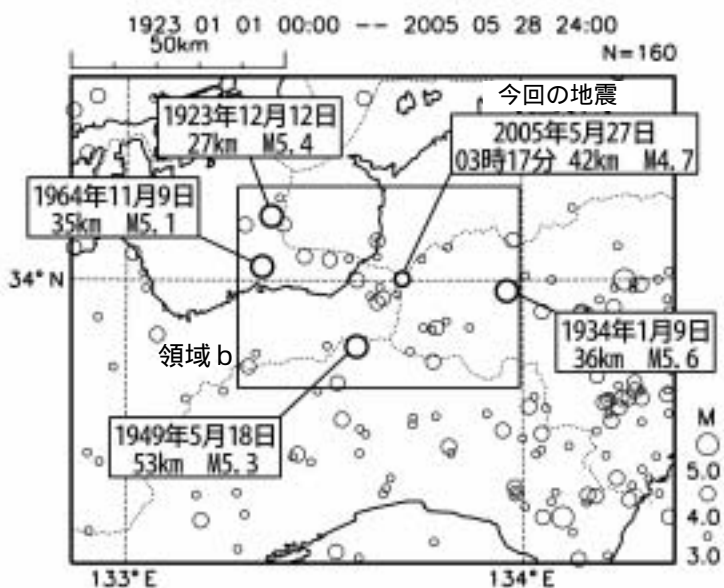
2005 年 5 月 27 日 03 時 17 分に香川・徳島・愛媛県境付近 [徳島県北部] の深さ 42km で M4.7 (最大震度 3) の地震が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部の地震である。発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、付近の地震によく見られるタイプある。余震活動は 27 日中に 6 回 (最大 M2.9) 観測されたが、その日のうちに収まった。

今回の地震の震源付近では、2005 年に入って、M3 クラスの地震の数が若干増加している。(**A**)

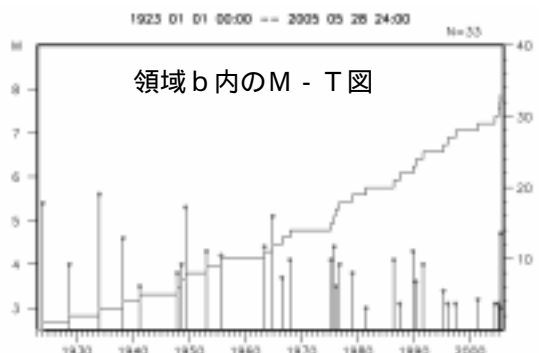


B

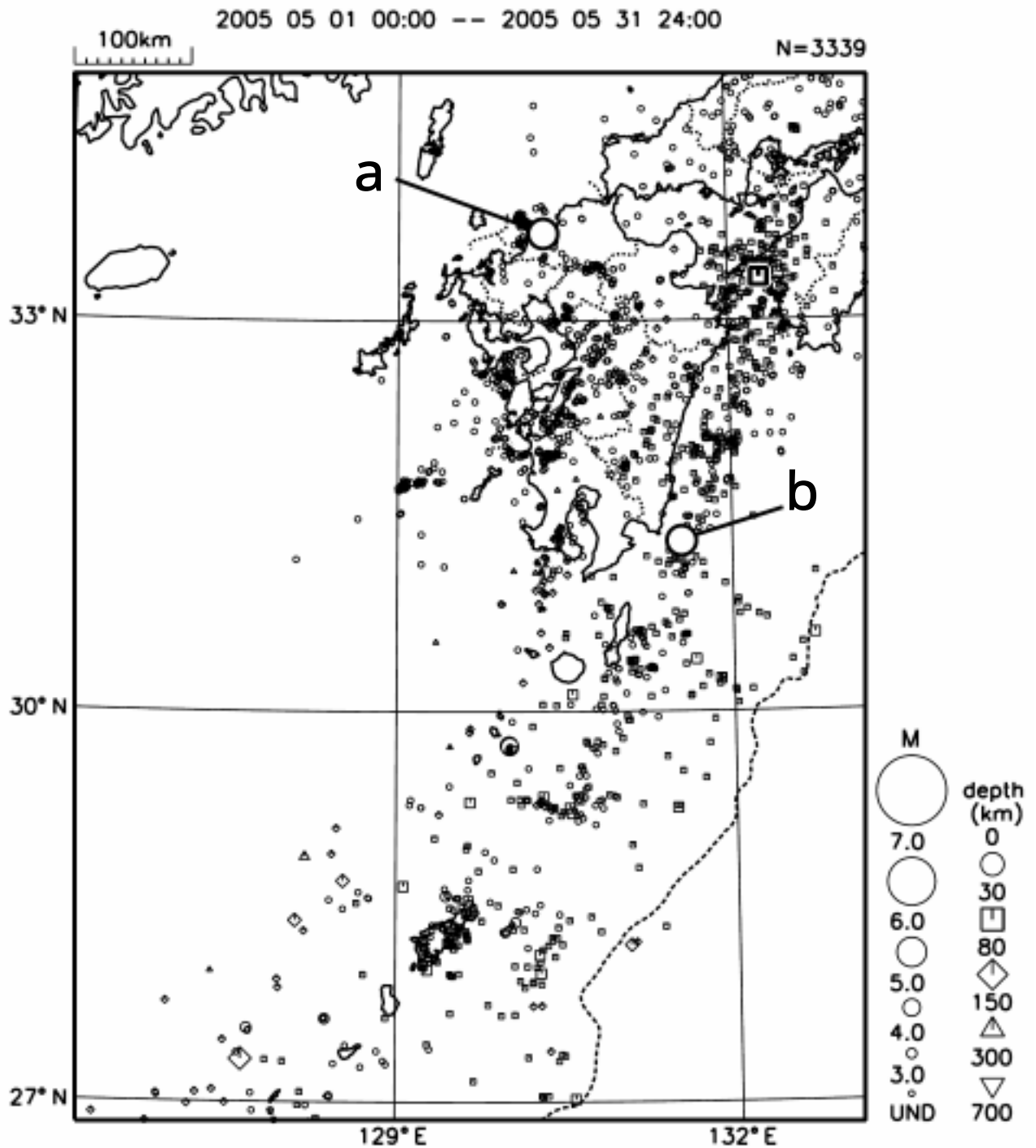
震央分布図(1923 年 8 月以降、M 3.0、深さ 20km ~ 60km)



1923 年 8 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近およびその周辺 (領域 b) では、M5.0 以上の地震が 4 回発生しているが、1964 年 11 月 9 日 (M5.1) 以降は発生していない。(**B**)



九州地方



a) 5月2日に福岡県西方沖で M5.0 (最大震度 4) の地震があった。この地震は3月20日の福岡県西方沖の地震 (M7.0) の余震である。

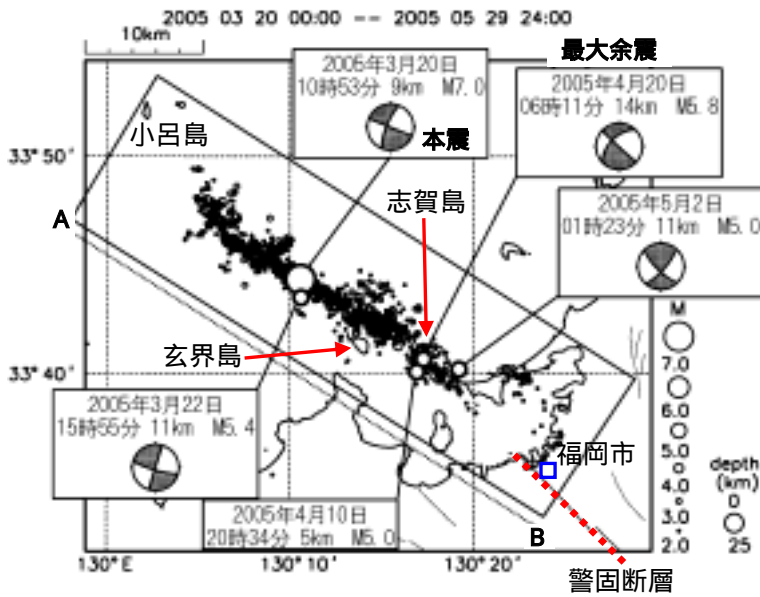
b) 5月31日に日向灘で M5.8 (最大震度 4) の地震があった。

(上記期間外) 6月3日に熊本県天草芦北地方で M4.8 (最大震度 5弱) の地震があった。

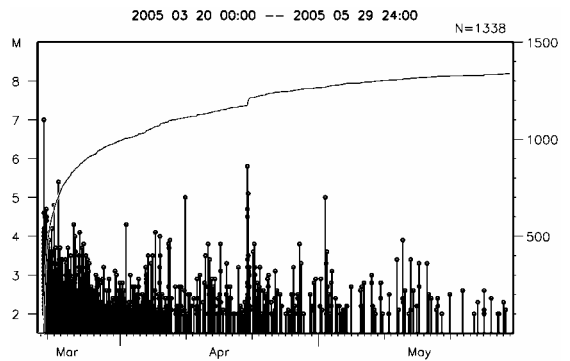
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

福岡県西方沖の地震の余震活動

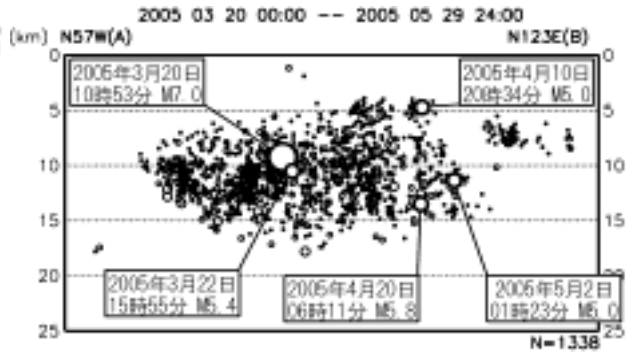
震央分布図 (2005年3月20日以降、M 2.0)



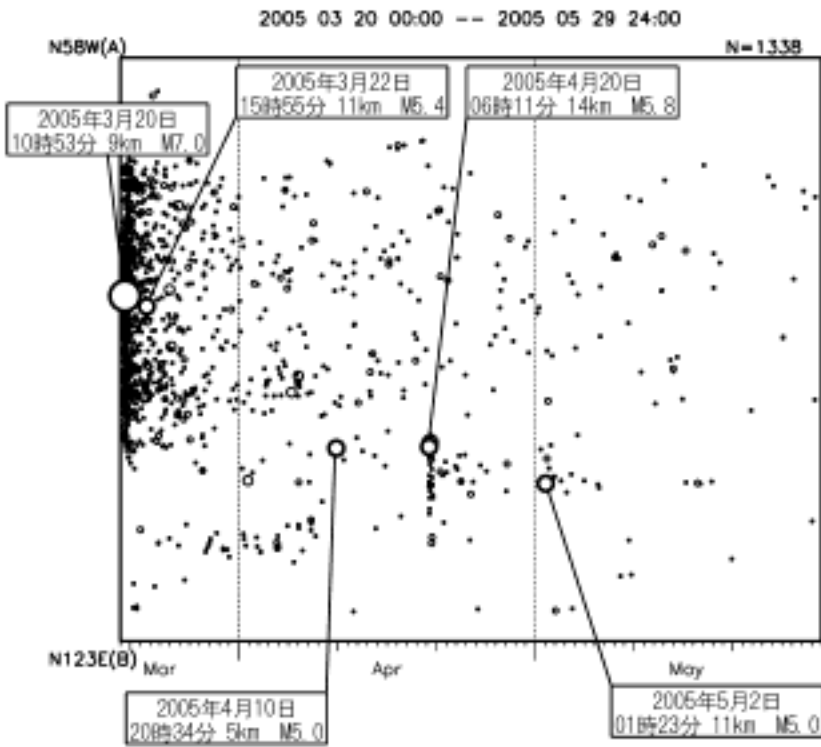
領域 a 内の M - T & 回数積算図



領域 a 内の断面図 (A - B 投影)



領域 a 内の時空間分布図 (A - B 投影)



福岡県西方沖の地震 (2005年3月20日10時53分、M7.0、最大震度6弱) の余震活動は順調に減衰してきている。

2005年4月20日にそれまでの余震域の南東端付近 (志賀島付近) の深さ14kmで、最大余震となるM5.8の地震 (最大震度5強) が発生した後、二次的な余震が発生し、活動域は博多湾方向に伸びた。

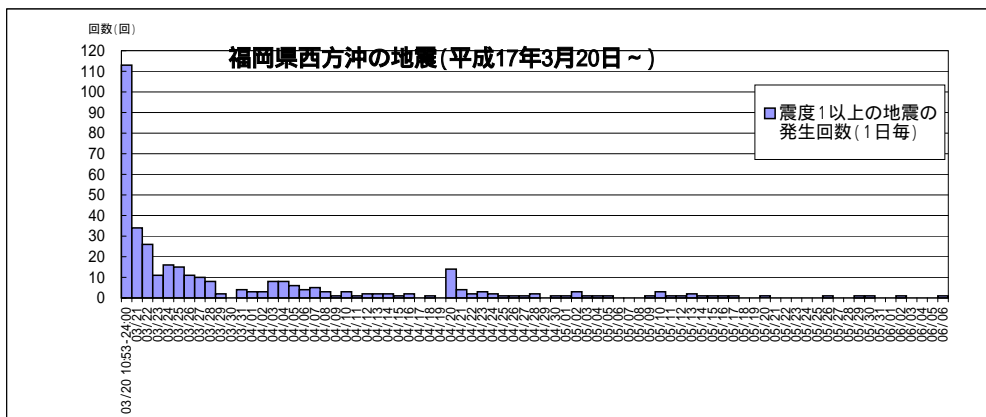
5月2日にも志賀島付近の深さ11kmでM5.0の地震 (最大震度4) が発生したが、その後現在までM4以上の地震は発生しておらず、規模・発生個数ともに低下している。

福岡県西方沖の地震(平成17年3月20日～)

震度1以上を観測した地震の最大震度別回数表(本震を含む)

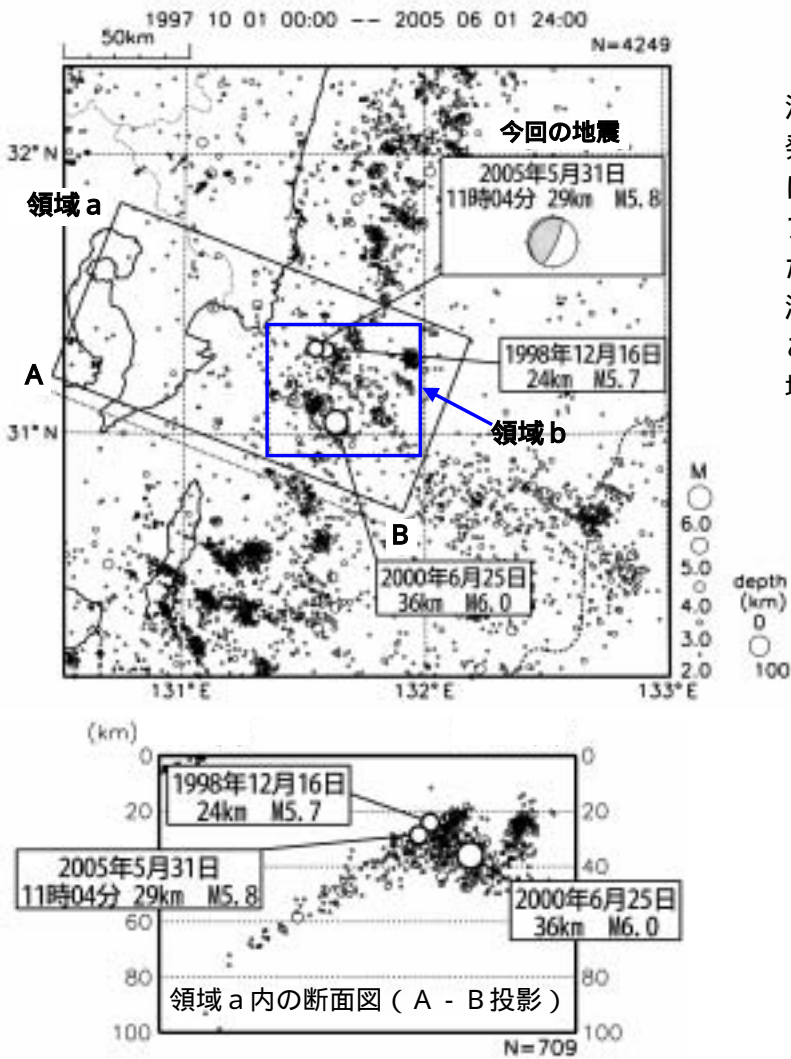
*この資料は速報値であり、後日の調査で変更されることがあります。

期 間	最大震度別回数							震度1以上を 観測した回数		福岡西区玄界島のみで 震度1以上を観測した回数 (03/21 18時より観測開始)		
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
03/20 10:53-24:00	66	40	6				1			113	113	
03/21	26	6	2							34	147	玄界島 7回(2:1回、1:6回)
03/22	15	10		1						26	173	玄界島 14回(2:6回、1:8回)
03/23	8	1	2							11	184	玄界島 9回(2:1回、1:8回)
03/24	8	6	2							16	200	玄界島 8回(2:2回、1:6回)
03/25	9	5	1							15	215	玄界島 6回(2:2回、1:4回)
03/26	4	7								11	226	玄界島 6回(2:2回、1:4回)
03/27	6	3	1							10	236	玄界島 6回(2:1回、1:5回)
03/28	6	2								8	244	玄界島 3回(2:1回、1:2回)
03/29	1	1								2	246	
03/30											246	
03/31	3	1								4	250	玄界島 4回(2:1回、1:3回)
04/01	2			1						3	253	
04/02	3									3	256	玄界島 2回(1:2回)
04/03	5	1	2							8	264	玄界島 6回(3:2回、2:1回、1:3回)
04/04	4	4								8	272	玄界島 5回(2:2回、1:3回)
04/05	4	2								6	278	玄界島 4回(1:4回)
04/06		1	3							4	282	玄界島 1回(2:1回)
04/07	1	3		1						5	287	玄界島 3回(2:2回、1:1回)
04/08		2	1							3	290	
04/09		1								1	291	玄界島 1回(2:1回)
04/10	2			1						3	294	玄界島 2回(1:2回)
04/11	1									1	295	玄界島 1回(1:1回)
04/12	2									2	297	玄界島 2回(1:2回)
04/13	1	1								2	299	
04/14		1	1							2	301	
04/15	1									1	302	
04/16	1	1								2	304	
04/17											304	
04/18		1								1	305	
04/19											305	
04/20	6	3	2	2		1				14	319	玄界島 1回(1:1回)
04/21	1	3								4	323	玄界島 1回(1:1回)
04/22	2									2	325	
04/23	3									3	328	玄界島 1回(1:1回)
04/24	1	1								2	330	
04/25	1									1	331	
04/26	1									1	332	玄界島 1回(1:1回)
04/27	1									1	333	玄界島 1回(1:1回)
04/28	1	1								2	335	玄界島 1回(1:1回)
04/29											335	
04/30	1									1	336	玄界島 1回(1:1回)
05/01	1									1	337	玄界島 1回(1:1回)
05/02	1	1		1						3	340	
05/03		1								1	341	
05/04	1									1	342	
05/05	1									1	343	玄界島 1回(1:1回)
05/06											343	
05/07											343	
05/08											343	
05/09	1									1	344	玄界島 1回(1:1回)
05/10	3									3	347	
05/11	1									1	348	玄界島 1回(1:1回)
05/12		1								1	349	玄界島 1回(2:1回)
05/13	1	1								2	351	玄界島 1回(1:1回)
05/14	1									1	352	
05/15	1									1	353	玄界島 1回(1:1回)
05/16	1									1	354	
05/17		1								1	355	
05/18											355	
05/19											355	
05/20	1									1	356	
05/21											356	
05/22											356	
05/23											356	
05/24											356	
05/25											356	
05/26	1									1	357	玄界島 1回(1:1回)
05/27											357	
05/28											357	
05/29		1								1	358	玄界島 1回(2:1回)
05/30		1								1	359	
05/31											359	
06/01											359	
06/02	1									1	360	玄界島 1回(1:1回)
06/03											360	
06/04											360	
06/05											360	
06/06		1								1	361	
計	212	115	23	7		1	1			359	359	

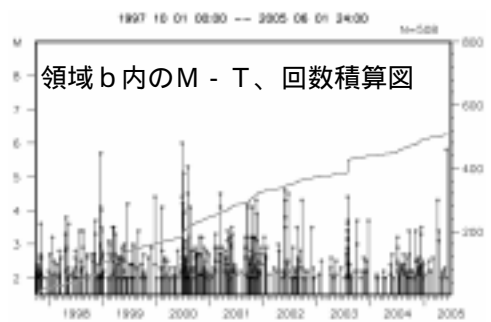


5月31日 日向灘の地震

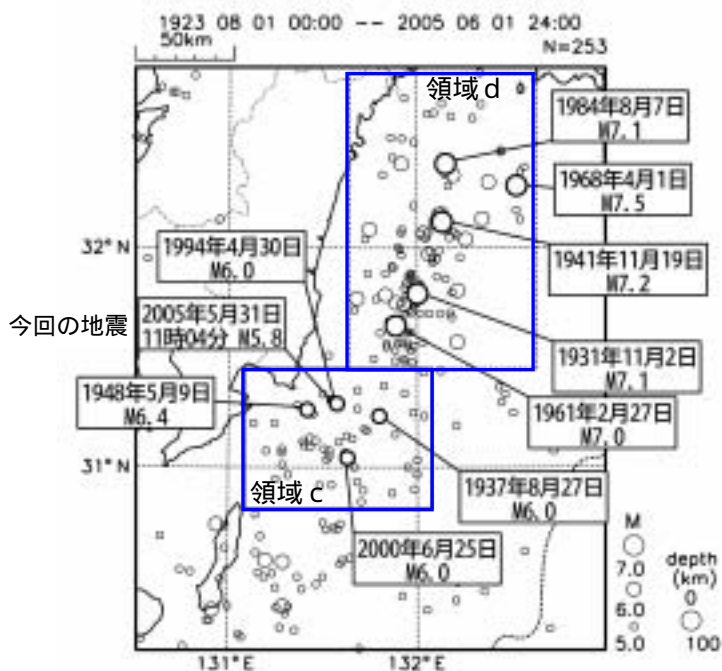
A 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)



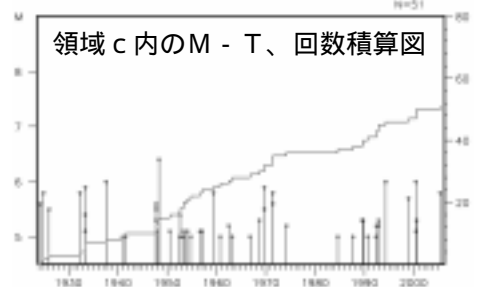
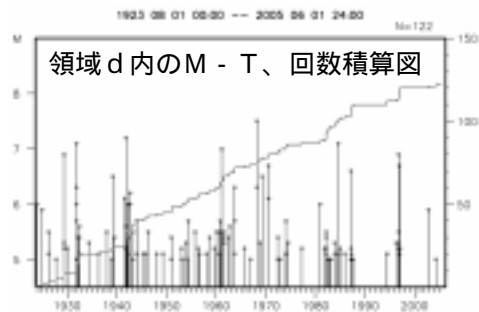
2005年5月31日11時04分に日向灘の深さ29kmでM5.8(最大震度4)の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型でフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震はM2.0以下が数回観測された。今回の地震の震源とほぼ同じところでは、1997年12月16日にもM5.7の地震が発生している。(A)



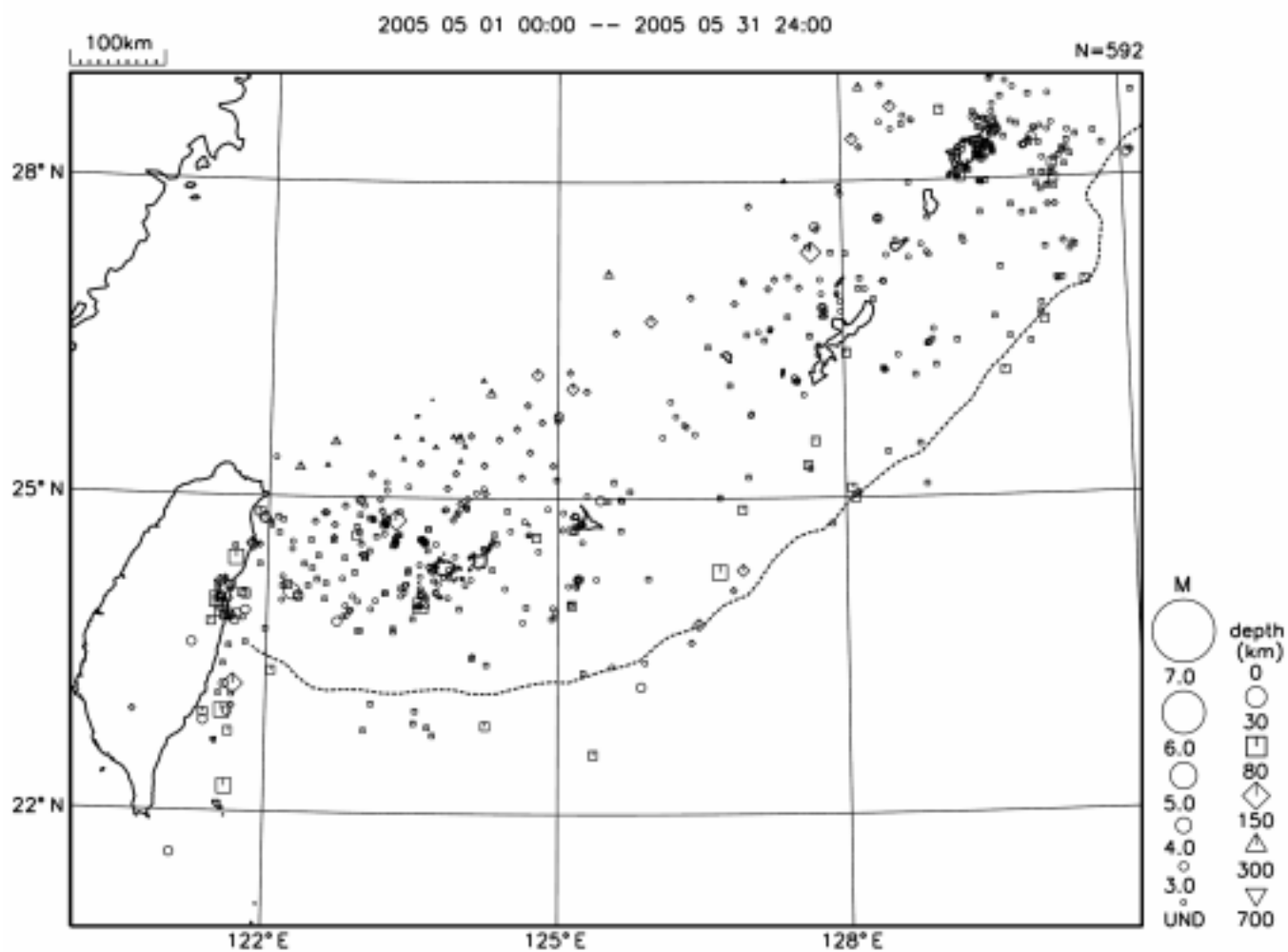
B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



日向灘では、宮崎県沖では過去にM7.0以上の地震が数多く発生しているが、今回の地震が発生した大隈半島沖では、M6クラスまでである(最大は1948年5月9日のM6.4)。(B)



沖縄地方



特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

とくに目立った活動はなかった。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

5月30日に気象庁において第230回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図3および図4)。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

地殻変動については、昨年9月5日の東海道沖(紀伊半島南東沖)のM7.4の地震以降、この地震による余効変動と見られる動きが観測されていました。最近ではこの地震以前の状態に戻りつつあり、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動が継続していると考えられます。

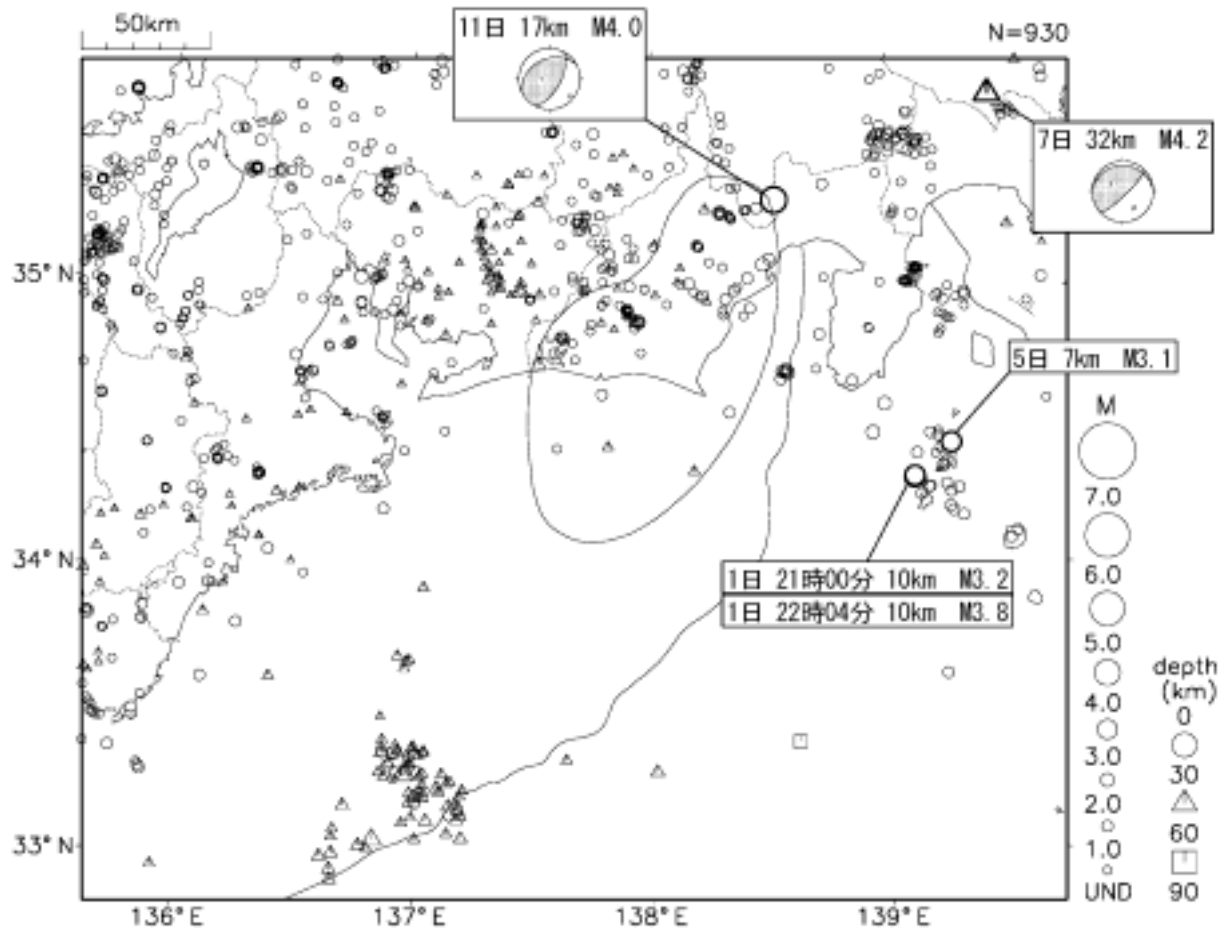


図1 震央分布図(2005年5月1日~31日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のなすび型の領域は東海地震の想定震源域。)

1日21時00分および22時04分、新島・神津島近海の深さ10kmでM3.2およびM3.8の地震があり、それぞれ最大震度2および3を観測した。

5日14時14分、新島・神津島近海の深さ7kmでM3.1の地震があり、最大震度2を観測した。

7日04時52分、東京都多摩東部の深さ32kmでM4.2の地震があり、最大震度3を観測した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。フィリピン海プレートの沈み込みに伴う地震と考えられる。

11日10時51分、山梨県中西部の深さ17km

で M4.0 の地震があり、最大震度 3 を観測した。発震機構は、北西 - 南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。陸のプレートとフィリピン

海プレートの境界付近の地震と考えられる。

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図 1)と「固着域」(図 3)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

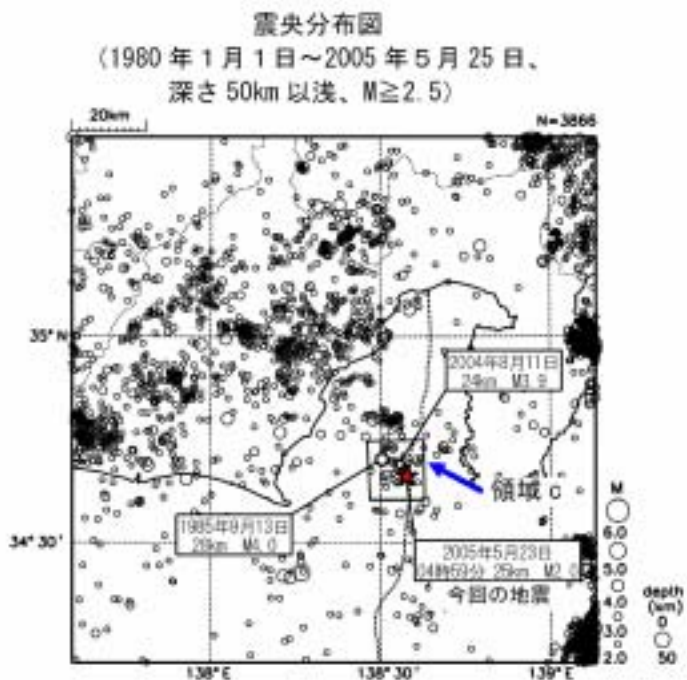
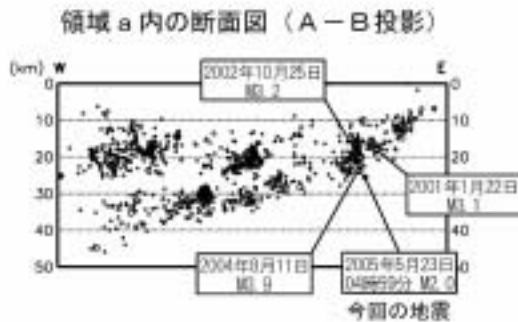
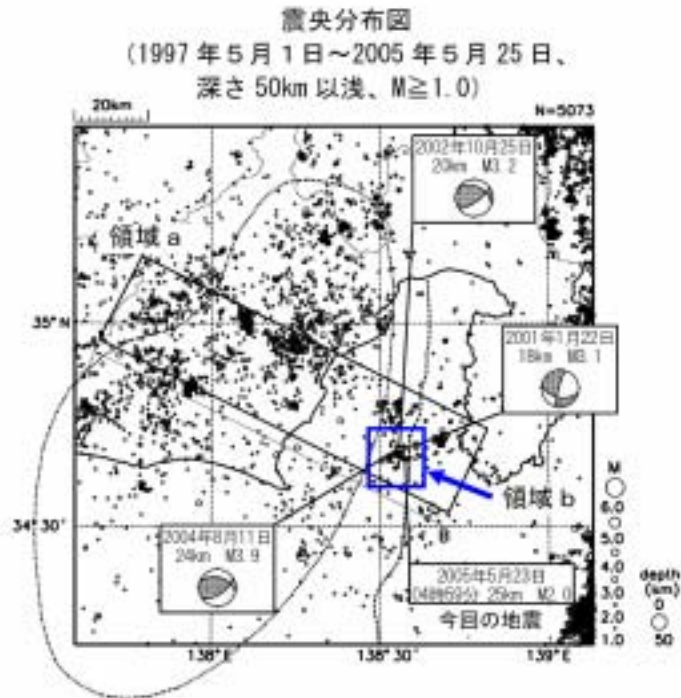
・「クラスタ除去」(図 3, 4)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が 3 km 以内、発生時間差が 7 日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

・東海地域の地震活動

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 216 市町村(平成 17 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

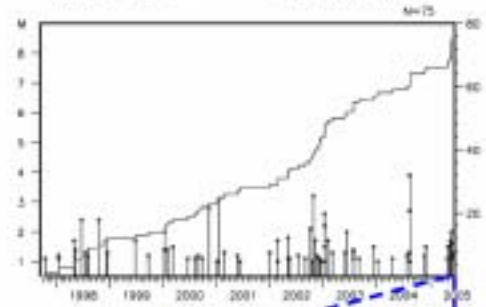
5月23・24日 駿河湾の地震活動



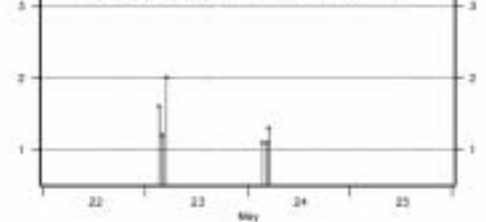
2005年5月23日と24日、駿河湾でM2.0を最大とする地震活動があった。今回の地震の付近には、地震の規模は小さいながらも明瞭なクラスタがあり、最近では2004年8月11日にM3.9の地震が発生している。これらの地震はフィリピン海プレート内部の地震と考えられる。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の付近ではM2.0以上の地震は珍しくない。最大は1985年9月13日のM4.0の地震である。

領域b内のM-T & 回数積算図



領域b内のM-T図
(2005年5月22日～25日)



領域c内のM-T図

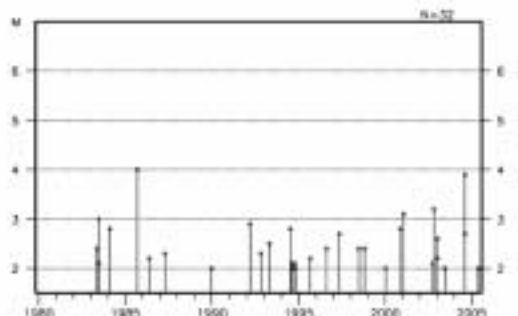


図2 駿河湾の地震活動

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2005年5月25日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	5	6	4	2	4	2	3	4
短期地震回数 (平均)	8 (6.18)	9 (5.83)	3 (4.37)	8 (12.63)	2 (2.38)	3 (6.08)	2 (3.70)	6 (6.18)
中期活動指数	4	4	4	3	4	1	2	4
中期地震回数 (平均)	16 (18.53)	19 (17.50)	11 (13.11)	32 (37.90)	3 (4.76)	6 (12.15)	4 (7.39)	11 (12.37)

* Mしきい値 :

M \geq 1.1 : 固着域、愛知県、浜名湖、M \geq 1.4 : 駿河湾

* クラスタ除去 :

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$: 固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$: 駿河湾

* 対象期間 :

短期 : 30日間 (固着域、愛知県)、90日間 (浜名湖、駿河湾)

中期 : 90日間 (固着域、愛知県)、180日間 (浜名湖、駿河湾)

* 基準期間 :

1997年—2001年 (5年間) : 固着域、愛知県、1998年—2000年 (3年間) : 浜名湖

1991年—2000年 (10年間) : 駿河湾

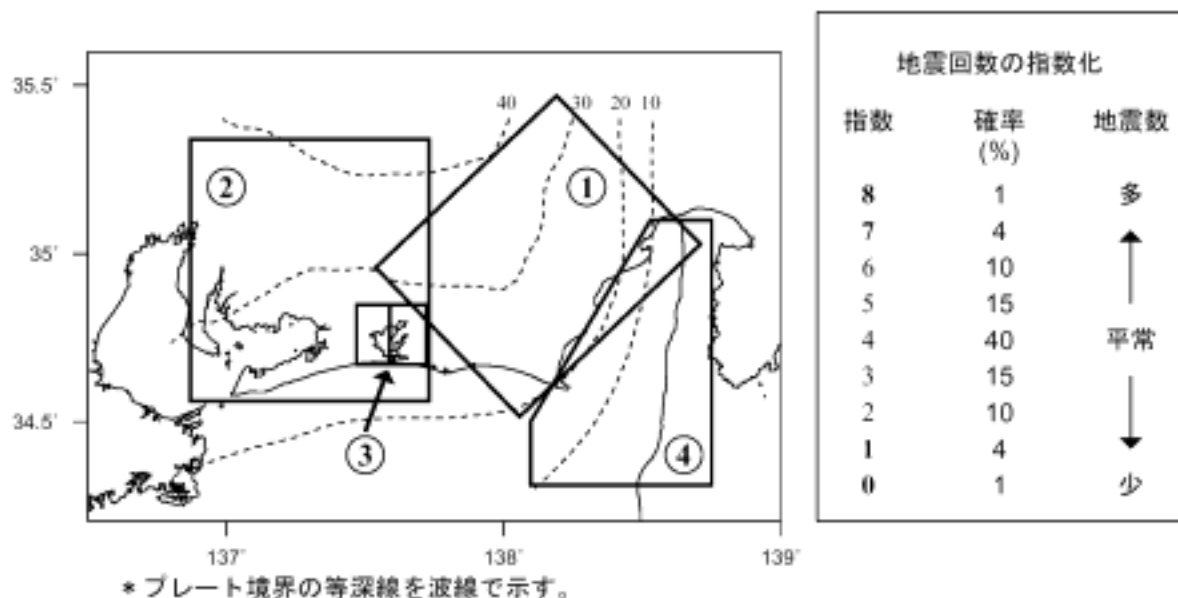
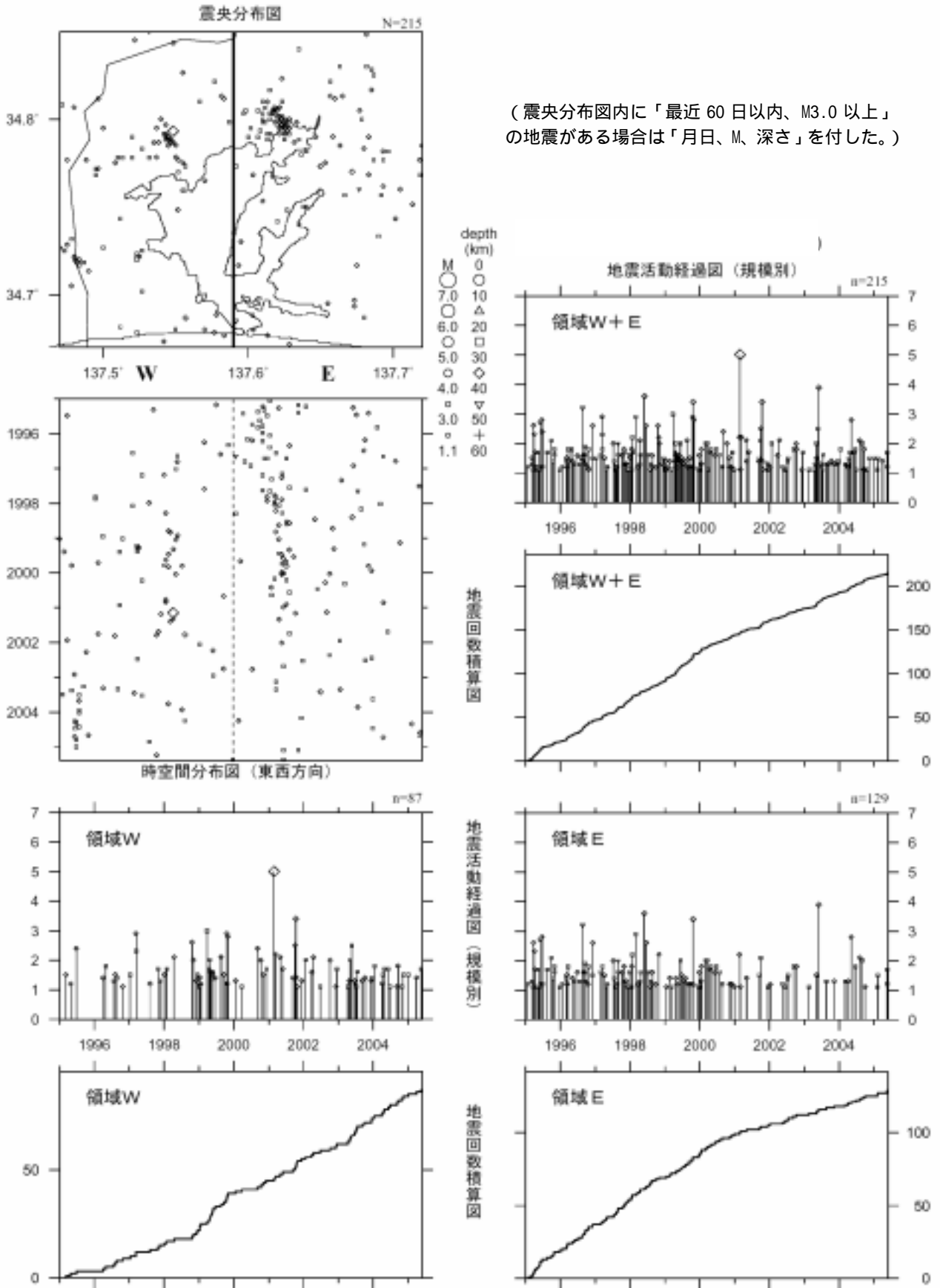


図3 東海地域の地震活動指数

浜名湖東側・全域では活動指数の低い状態が継続し、愛知県のフィリピン海プレート内短期もやや低かった。それ以外の地域は引き続き平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2005/ 5/ 25 M ≥ 1.1 *クラスタ除去したデータ



(震央分布図内に「最近 60 日以内、M3.0 以上」の地震がある場合は「月日、M、深さ」を付した。)

図4 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは 2000 年終わりごろからの活動の低下が継続しており、領域Wでは 2003 年半ばから静岡・愛知県境付近の活動が続いている。

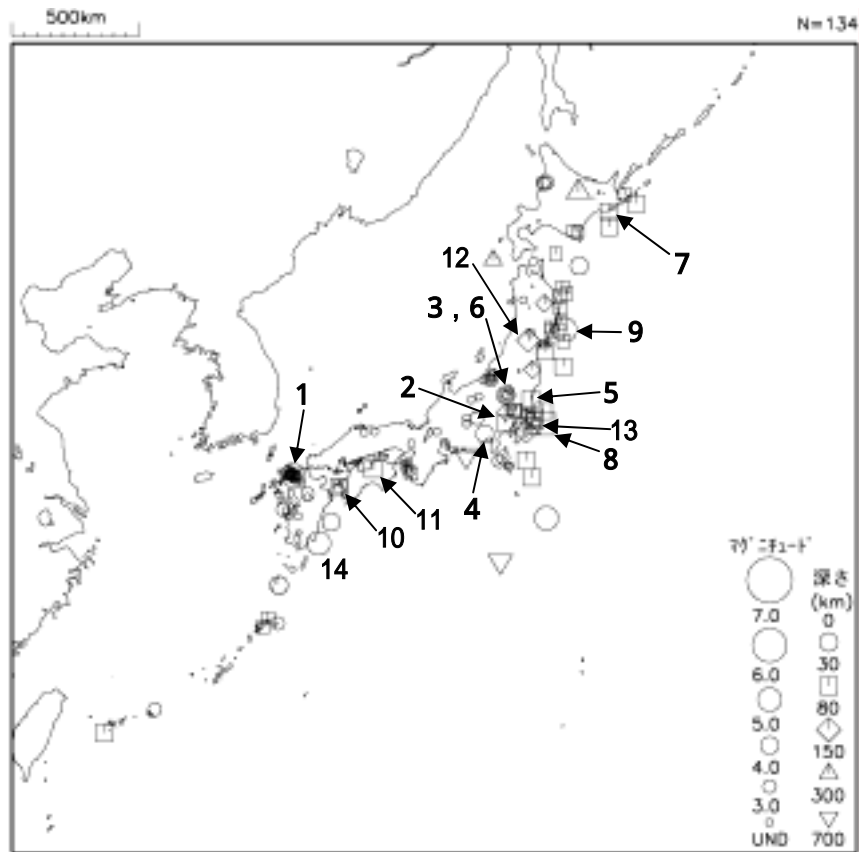


図1 2005年5月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

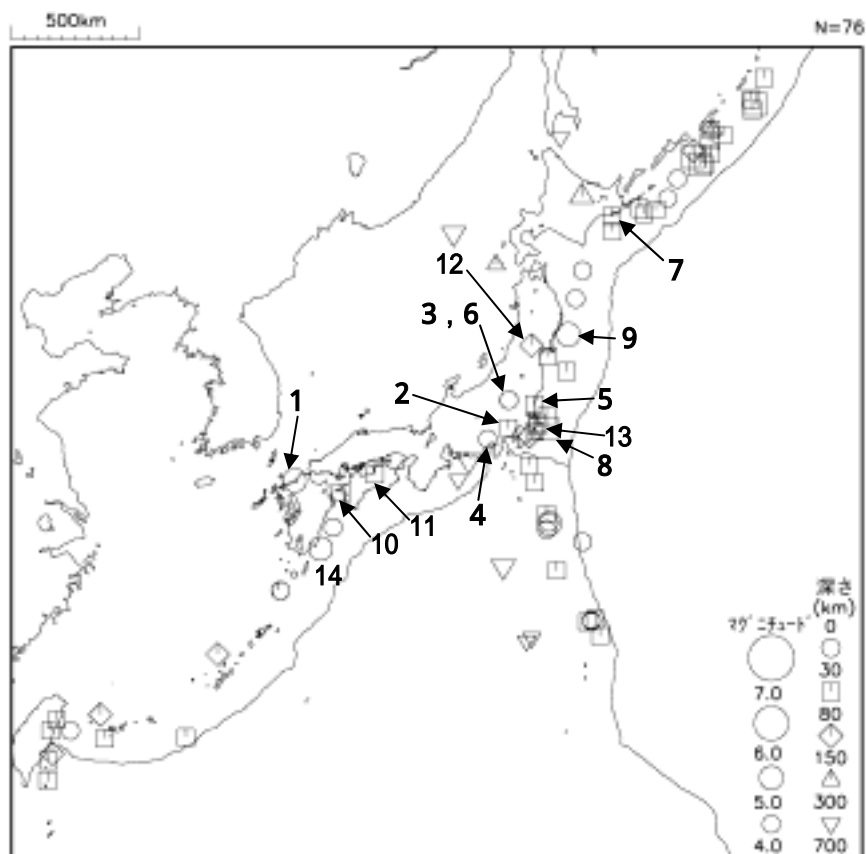


図2 2005年5月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

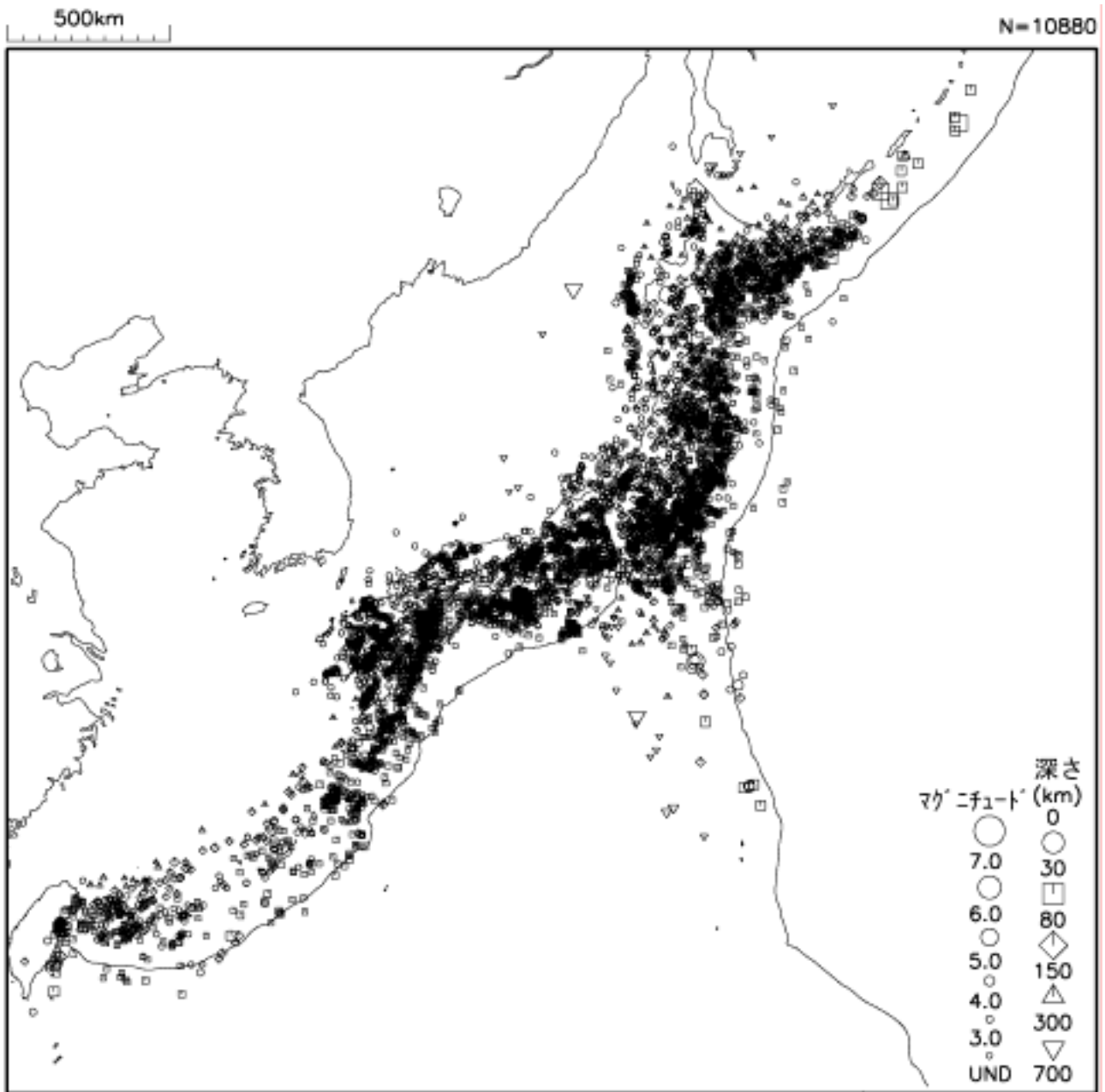


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2005年5月の地震の震央分布

2. 過去1年間に震度1以上が観測された地震の最大震度別の月別回数 <平成16年(2004年)5月~平成17年(2005年)5月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2005年5月	82	34	13	5						134	福岡県西方沖の地震の余震 (震度4:1回、震度2:7回、 震度1:15回)
2005年4月	119	53	13	7		2				194	11日千葉県北東部(震度5強) 福岡県西方沖の地震の余震 (震度5強:1回、 震度4:5回、震度3:9回、 震度2:26回、震度1:45回)
2005年3月	231	129	25	3			1			389	20日 福岡県西方沖(震度6弱:1回、 震度4:1回、震度3:14回、 震度2:82回、震度1:152回) 新潟県中越地震の余震 (震度3:4回、震度2:7回、 震度1:5回)
2005年2月	65	26	8	2	1					102	16日 茨城県南部(震度5弱) 新潟県中越地震の余震 (震度3:2回、震度2:5回、 震度1:7回)
2005年1月	86	38	6	5		1				136	18日 釧路沖(震度5強:1回、 震度2:5回、震度1:6回) 新潟県中越地震の余震 (震度4:2回、震度3:1回、 震度2:12回、震度1:7回)
2004年12月	116	54	18	2	1	2				193	6日 釧路沖(震度5強:1回、 震度3:2回、震度2:5回、 震度1:13回) 14日 留萌支庁南部(震度5強) 新潟県中越地震(震度5弱:1回、 震度4:1回、震度3:3回、 震度2:17回、震度1:33回)
2004年11月	206	106	32	15	1	3				363	29日 釧路沖(震度5強:1回、 震度4:1回、震度3:4回、 震度2:8回、震度1:8回) 新潟県中越地震の余震 (震度5強:2回、震度5弱:1回、 震度4:10回、震度3:19回、 震度2:65回、震度1:128回)
2004年10月	360	207	91	30	6	6	2	2	1	705	6日 茨城県南部(震度5弱) 15日 与那国島近海(震度5弱) 新潟県中越地震(震度7:1回、 震度6強:2回、震度6弱:2回、 震度5強:6回、震度5弱:4回、 震度4:30回、震度3:78回、 震度2:173回、震度1:304回)
2004年9月	87	31	12	2	2					134	紀伊半島沖・東海道沖の地震 (震度5弱:2回、震度4:1回、 震度3:2回、震度2:10回、 震度1:39回)
2004年8月	69	16	3	2	1					91	10日 岩手県沖(震度5弱:1回)
2004年7月	65	23	11	4						103	
2004年6月	79	26	8	1						114	
2004年5月	70	46	6	2						124	
2005年計	583	280	65	22	1	3	1			821	(平成17年1月~平成17年5月)
過去1年計	1565	743	240	78	12	14	3	2	1	2658	(平成16年6月~平成17年5月)

注) 「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上が観測された地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上が10回以上観測された地震活動について記載した。
地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。
平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県
10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
宮崎県、鹿児島県
平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県
平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)
3月28日 滋賀県
7月18日 富山県、香川県、大分県
平成13(2001)年3月22日 佐賀県 5月10日 山梨県、川崎市(神奈川県)
7月19日 高知県 12月12日 福島県
平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)
7月29日 北海道、長崎県
平成15(2003)年3月10日 沖縄県
平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

表 2 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M) 別の月別地震回数
 <平成16年(2004年)5月~平成17年(2005年)5月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2005年5月	287	64	12			363	76	福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9:10回、M5.0~5.9:1回)
2005年4月	366	66	8	2		442	76	11日:千葉県北東部(M6.1) 19日:鳥島近海(M6.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9:38回、M4.0~4.9:8回、 M5.0~5.9:3回)
2005年3月	618	89	7	1	1	716	98	6日:台湾付近(M6.2) 20日:福岡県西方沖(M7.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9:188回、M4.0~4.9:16回、 M5.0~5.9:1回) 房総半島南東沖の地震活動 (M3.0~3.9:103回、M4.0~4.9:6回)
2005年2月	322	59	11	1		393	71	10日:父島近海(M6.5) 新潟県中越地震の余震活動 (M3.0~3.9:6回、M4.0~4.9:2回) 房総半島南東沖の地震の余震 (M3.0~3.9:31回、M4.0~4.9:2回、 M5.0~5.9:1回)
2005年1月	468	86	13	2		569	101	18日:釧路沖(M6.4) (M3.0~3.9:12回、M4.0~4.9:7回、 M5.0~5.9:0回、M6.0~M6.9:1回) 19日:房総半島南東沖(M6.8) 房総半島南東沖の地震の余震 (M3.0~3.9:120回、M4.0~4.9:18回、 M5.0~5.9:5回) 新潟県中越地震の余震 (M3.0~3.9:12回、M4.0~4.9:2回)
2004年12月	411	92	9	2		514	103	6日:釧路沖(M6.9) (M3.0~3.9:43回、M4.0~4.9:18回、 M5.0~5.9:1回、M6.0~M6.9:1回) 14日:留萌支庁南部(M6.1) 新潟県中越地震の余震(M3.0~3.9:18回、 M4.0~4.9:2回、M5.0~5.9:1回)
2004年11月	402	99	22	4	1	528	126	7日:オホーツク海南部(M6.0) 9日:台湾付近(M6.4) 11日:釧路沖(M6.3) 29日:釧路沖(M7.1)、釧路沖(M6.0) (M3.0~3.9:39回、M4.0~4.9:14回、 M6.0~6.9:1回、M7.0~M7.9:1回) 新潟県中越地震の余震(M3.0~3.9:81回、 M4.0~4.9:12回、M5.0~5.9:8回)
2004年10月	639	138	23	6		806	167	15日:与那国島近海(M6.6) 23日:新潟県中越地震(M6.8) 新潟県中越地震の余震 (M3.0~3.9:268回、M4.0~4.9:71回、 M5.0~5.9:13回、M6.0~6.9:5回) 紀伊半島沖・東海道沖の地震の余震 (M3.0~3.9:42回、M4.0~4.9:7回)
2004年9月	737	135	20	2	2	896	159	5日:紀伊半島沖(M7.1)、東海道沖(M7.4) 紀伊半島沖・東海道沖の余震 (M3.0~3.9:484回、M4.0~4.9:69回、 M5.0~5.9:7回、M6.0~6.9:2回、 M7.0以上:2回)
2004年8月	317	83	8			408	91	
2004年7月	330	115	15	2		462	132	08日:千島列島(M6.3) 22日:沖縄本島近海(M6.1) フィリピン パタン諸島付近の地震活動 (M4.0~4.9:49回、M5.0~5.9:6回)
2004年6月	329	77	10			416	87	
2004年5月	324	68	17	2		411	87	19日:台湾付近(M6.1) 30日:房総半島南東沖(M6.7)
2005年計	2061	364	51	6	1	2483	422	(平成17年1月~平成17年5月)
過去1年計	5226	1103	158	22	4	6513	1287	(平成16年6月~平成17年5月)

注)日本及びその周辺:北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

世界の主な地震

5月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

2005 5 01 00:00 --- 2005 5 31 24:00

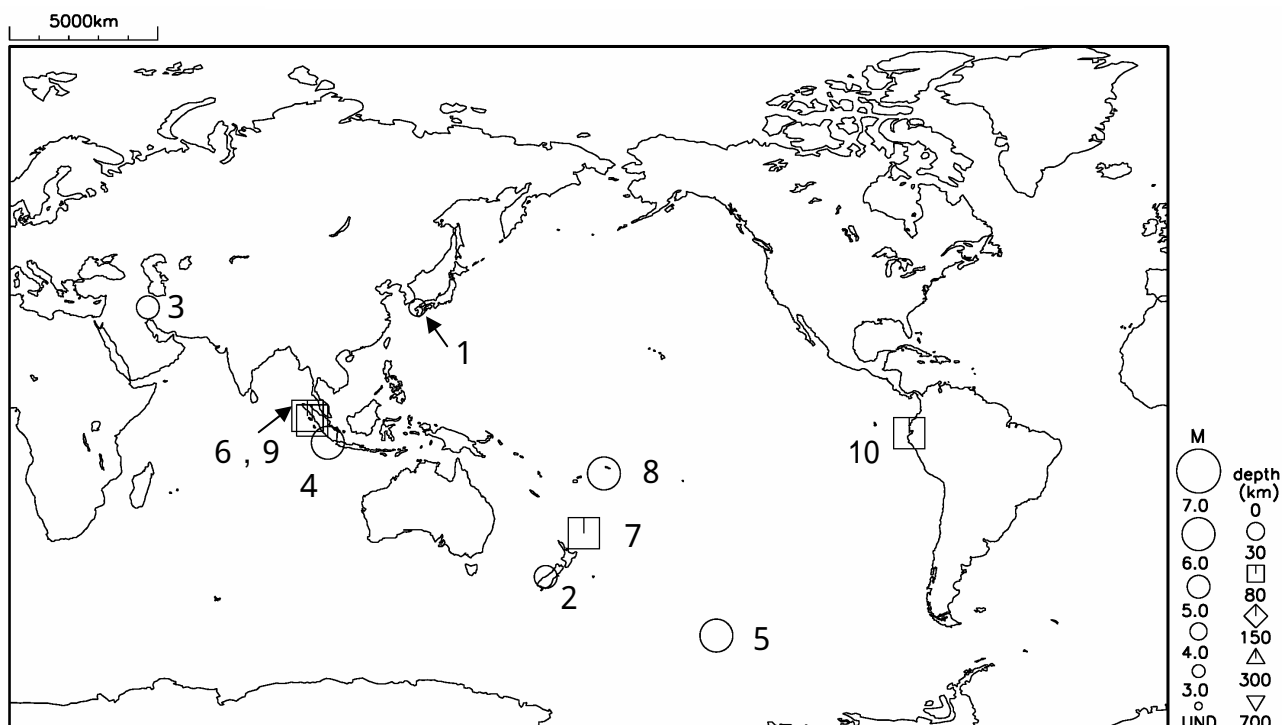


図1 2005年5月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

<震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

* : 数字は、表1の番号に対応する。

** : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

表1 2005年5月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ(km)	mb	Ms	Mw	震央地名	被害状況
1	05月02日01時23分	N33° 36.6'E130° 14.5'		10*	4.6	(5.0)		福岡県西方沖	負傷者1名
2	05月03日00時35分	S43° 57.0'E169° 04.8'		17	5.3	4.9		ニュージーランド南島	小被害
3	05月03日16時21分	N33° 42.8'E 48° 40.9'		12	5.0	3.8		イラン西部	死者4名、負傷者26名以上
4	05月10日10時09分	S 6° 13.3'E103° 08.0'		17*	5.9	6.4	6.2	インドネシア、スマトラ島	
5	05月12日20時15分	S57° 24.0'W139° 13.8'		10*	6.0	6.2	6.4	太平洋 - 南極海嶺	
6	05月14日14時05分	N 0° 35.1'E 98° 24.0'		34*	6.4	6.8	6.8	インドネシア、スマトラ北部	
7	05月16日12時54分	S32° 32.9'W179° 20.1'		34*	6.2	6.4	6.6	ケルマデック諸島南方沖	
8	05月18日19時27分	S15° 26.5'W173° 15.7'		10*	5.6	6.0	6.1	トンガ諸島	
9	05月19日10時54分	N 1° 58.5'E 97° 02.1'		30*	6.2	6.9	6.7	スマトラ北部西方沖	
10	05月21日14時11分	S 3° 17.1'W 80° 50.8'		39	6.1	5.7	6.3	ペルー-エクアドル国境付近	

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2005年6月2日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。

千トン程度と依然として多い状態が続いている。18日にはごく小規模な噴火が発生した。

福徳岡ノ場 海上自衛隊の観測によると、18日に変色水が確認された。

九重山 [火山活動度レベルは1(静穏な火山活動)]

阿蘇山 [13日に火山活動度レベルを3(小規模な噴火の可能性)から2(やや活発な火山活動)に変更]

4月15日以降噴火がなく、5月7日頃から火山性連続微動の振幅が小さくなるなど活動にやや低下が見られたことから、5月13日に火山活動度レベルを3から2に変更した。

噴火はその後も発生していないが、期間中、中岳第一火口では、湯だまり内で小規模の土砂噴出が継続して観測され、湯だまり量は約2割で推移し、湯だまりの表面温度は71~77と高い状態が続いている。31日夜には火口底北側のごく一部で弱い赤熱現象¹⁾が観測された。火山性連続微動は期間を通して継続し、期間の初めから7日頃までは振幅がやや大きい状態であった。孤立型微動はやや多い状態で推移した。

1) 地下から高温の火山ガスなどが噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。阿蘇山では、赤熱域が拡大すると、火孔が開孔し、噴火活動が活発化した例がある。

雲仙岳 [火山活動度レベルは1(静穏な火山活動)]

霧島山 [火山活動度レベルは御鉢が2(やや活発な火山活動)、新燃岳が1(静穏な火山活動)]
御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。

桜島 [火山活動度レベルは2(比較的静穏な噴火活動)]

ごく小規模な噴火が時折発生しているが、爆発的噴火等²⁾は観測されなかった。火山性地震の発生は総じて少ないものの、A型地震³⁾のやや多い状態が続いている。また、GPSによる地殻変動観測では、昨年11月頃から本年2月にかけて各観測点間の距離の伸びが加速する傾向が見られていたが、本年3月以降は伸びの傾向が緩やかになっている。

2) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火の回数を桜島の噴火回数として計数している。今期間はこれらに該当する噴火は観測されなかった。

3) 火山性地震には、通常の構造性地震と同じようなP波、S波が明瞭で高周波の波動からなるA型地震と、位相が不明瞭な低周波のB型地震がある。桜島のA型地震は、マグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされている。過去の活動において、A型地震のやや多い状態が続き、震源が浅部に移動した後、B型地震が増加し噴火活動が活発になった事例がある。

薩摩硫黄島 [火山活動度レベルは2(やや活発な火山活動)]

口永良部島 [火山活動度レベルは2(やや活発な火山活動)]
火山性地震のやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島 [火山活動度レベルは3(小規模な噴火が発生)]

下旬に噴火活動が活発になり、噴火が20~21日、26~31日に観測された。30~31日には爆発的噴火が時々発生した。20日及び30日には集落(御岳の南南西約4km)で降灰があった。爆発的噴火が発生したのは今年1月4日以来であった。噴火活動の活発な状態は6月3日(期間外)まで続いた。

平成 17 年 5 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 124 号 (1 日 1 回発表)	1 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況(噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況・上空の風の予想)。火山活動度レベルは 3。第 133 号、148 号には上空からの火口観測の結果、第 143 号には火山ガス観測の結果を含む。
	火山観測情報第 154 号	31 日 16:00	
三宅島	火山観測情報第 239 号 (1 日 2 回発表)	1 日 09:30	前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。
	火山観測情報第 272 号	17 日 16:30	
	火山観測情報第 273 号	18 日 09:40	18 日 02 時 41 分頃ごく小規模な噴火発生。前日 15 時～当日 09 時の活動状況、及び上空の風の予想。
	火山観測情報第 274 号 (1 日 2 回発表) 火山観測情報第 300 号	18 日 16:30 31 日 16:30	前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。
阿蘇山	火山観測情報第 22 号	2 日 11:30	火山活動は活発な状態が継続(4 月 15 日以降噴火はなし、連続微動継続し振幅やや大きい)。火山活動度レベルは 3。
	火山観測情報第 23 号	6 日 11:00	
	火山観測情報第 24 号	9 日 11:15	
	火山観測情報第 25 号	13 日 15:00	火山活動度レベルを 3 から 2 に変更。小規模噴火の可能性は低くなる。
	火山観測情報第 26 号	20 日 11:00	やや活発な火山活動が継続(連続微動継続、湯だまりの表面温度高い)。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 27 号	27 日 11:00	
口永良部島	火山観測情報第 19 号	6 日 14:00	火山活動はやや活発な状態が継続。レベルは 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 2 号	31 日 09:50	昨日(30 日)から噴火活動活発(爆発的噴火が発生)。火山活動度レベルは 3。